平成16年度

市原市内遺跡発掘調査報告

不入（ふにゅう）遺跡
潤井戸西山（うるいどにしやま）遺跡D地点
姉崎山新（あねさきさんしん）遺跡
江子田（えこだ）遺跡
郡本（こおりもと）遺跡群

２００５

市原市教育委員会

序　文

市原市は、温暖な気候と豊かな自然環境を背景に、先史より多くの人々によって生活が営まれた地であり、国指定史跡上総国分僧寺跡、上総国分尼寺跡をはじめとして、随所にその痕跡を見ることができます。

しかし、首都圏に位置する市原市は、高度経済成長期以降、大規模な宅地開発やゴルフ場建設が計画され、多くの貴重な遺跡が破壊の危機を迎えたことがありました。近年、一頃の開発ラッシュを思うと、その歩調は幾分緩やかになってまいりましたが、市として、地域基盤の整備は、今後とも着実に進めていかなければならないことも事実です。その中で、いかに開発と文化財保護の調和をはかり、文化財をいかに活用していくかは、今日においても、私たちに課せられた大きな責務であります。

本報告書は、開発によって失われていく市内所在遺跡について、国庫および県費の補助を受けて発掘調査を行った記録をまとめたものでありますが、本書が学術資料としてはもとより、より多くの方々が郷土の歴史への関心を高め、埋蔵文化財の保護と重要性を理解していただくための資料として、広く活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査から本報告書刊行に至るまで、御指導・御協力いただきました文化庁記念物課、千葉県教育庁文化財課をはじめ、関係諸機関各位に心より御礼申し上げます。

平成17年3月

市原市教育委員会
教育長　山中　齊

例　言

1　本書は、国庫および県費の補助をうけて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市原市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査および整理作業は、市原市教育委員会の委託により、財団法人市原市文化財センターが実施し、報告書刊行は、市原市教育委員会が行った。

3　本報告書所収の調査は、以下のとおりである。

(1) 不入遺跡(センター調査コード　セ387)　　市原市久保793
墓地造成にともなう確認調査　調査対象面積1,188.16㎡(調査面積118.8㎡)
調査期間　平成16年5月17日～平成16年5月21日　　調査担当　小川浩一

(2) 潤井戸西山遺跡(センター調査コード　セ389)　　市原市草刈尾梨194−1
店舗建設にともなう確認調査　調査対象面積2,500㎡(調査面積250㎡)
調査期間　平成16年5月26日～平成16年6月4日　　調査担当　小川浩一

(3) 姉崎山新遺跡(センター調査コード　セ391)　　市原市姉崎字堂ノ内1599−3
個人住宅建設にともなう確認調査、一部本調査　調査対象面積258.13㎡(調査面積26㎡)
調査期間　平成16年6月14日～平成16年6月18日　　調査担当　櫻井敦史

(4) 江子田遺跡(センター調査コード　セ392)　　市原市江子田字送り神307−195
個人住宅建設にともなう確認調査、一部本調査　調査対象面積162.17㎡(調査面積20.7㎡)
調査期間　平成16年7月20日～平成16年7月28日　　調査担当　鶴岡英一

(5) 郡本遺跡群(センター調査コード　セ394)　　市原市郡本4丁目40・80・81
個人住宅建設にともなう確認調査　調査対象面積460.02㎡(調査面積12㎡)
調査期間　平成16年9月7日～平成16年9月10日　　調査担当　木對和紀

4　整理作業および本書の執筆、編集は、大村直が行った。ただし、郡本遺跡群出土貝類の分析および原稿執筆(6−(2))については鶴岡英一が担当した。

本 文 目 次

1　調査遺跡の位置と概要 …… 1
2　不入遺跡の調査 …… 5
3　潤井戸西山遺跡Ｄ地点の調査 …… 7
4　姉崎山新遺跡の調査 …… 10
5　江子田遺跡の調査 …… 13
6　郡本遺跡群の調査 …… 20

挿 図 目 次

第1図　調査遺跡位置図(1) …… 2
第2図　調査遺跡位置図(2) …… 3
第3図　不入遺跡位置図 …… 5
第4図　不入遺跡全体図・遺構図・出土遺物 …… 6
第5図　潤井戸西山遺跡全体図 …… 7
第6図　潤井戸西山遺跡Ｄ地点全体図 …… 8
第7図　潤井戸西山遺跡Ｄ地点遺構図・出土遺物 …… 9
第8図　姉崎山新遺跡位置図 …… 10
第9図　姉崎山新遺跡全体図・出土遺物 …… 11
第10図　姉崎山新遺跡遺構図 …… 12
第11図　江子田遺跡位置図 …… 13
第12図　江子田遺跡全体図 …… 14
第13図　江子田遺跡1号竪穴遺構図 …… 15
第14図　江子田遺跡出土遺物(1) …… 16
第15図　江子田遺跡出土遺物(2) …… 17
第16図　江子田遺跡出土遺物(3) …… 18
第17図　江子田遺跡出土遺物(4) …… 19
第18図　郡本遺跡群位置図 …… 21
第19図　郡本遺跡群全体図・出土遺物 …… 22
第20図　貝層全体の種組成 …… 24
第21図　主要貝類の殻高分布図 …… 24
第22図　微小貝類の種組成と生育域別組成 …… 25

1　調査遺跡の位置と概要

首都圏外縁に位置する市原市では、昭和30年代後半から昭和40年代前半の高度成長期以降、海岸部の京葉工業地帯とともに、内陸部でも大規模な宅地造成やゴルフ場建設が行われるようになった。近年、こうした大規模な開発は一時期に比べて沈静化しつつあるが、都市計画区域内における個人宅地造成など、小規模開発はなお進行している。市原市では、昭和62年度より国庫、県費の補助をうけ、おもに個人宅地造成等について対処している。本年度は、以下の5遺跡について発掘調査を実施した。

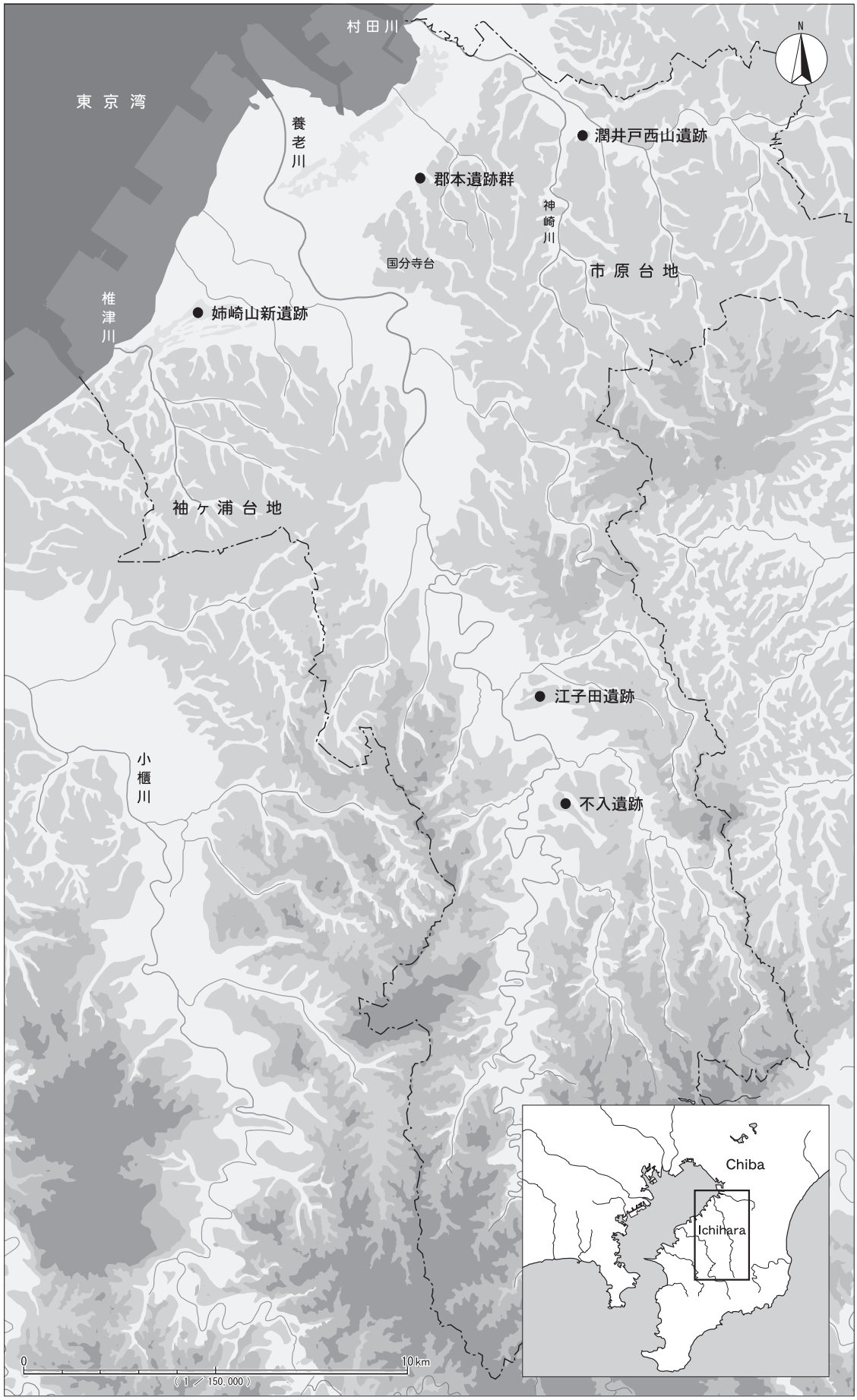
不入遺跡は、養老川上流域右岸の河岸段丘面に所在し、調査地点付近の標高は約51mを測る。遺跡北面には、現状で養老川支流久能川が東西に走行するが、付近の地形は、旧養老川による曲流・短絡によって複雑な景観をみせている。東側河岸段丘斜面部には永田・不入窯跡が所在し、永田窯と今回の調査区とは約350mの至近距離にある。遺跡は、弥生・奈良・平安時代の包蔵地として登録されているが、永田・不入窯操業時には、その工房および関連集落が展開していたものと推定される。

永田・不入窯跡は、千葉県内では数少ない奈良・平安時代の須恵器窯跡である。発掘調査は、1974年に行われたものが初例であり(大川1976)、その後、ほ場整備事業にともない1984・1986・1987年に市原市文化財センターが丘陵下水田部分について(山口1985、田所1989a)、1992・1994年には財団法人千葉県文化財センターが、窯本体が所在する丘陵斜面部について発掘調査を実施している(郷堀・小林1992、森本1995)。その結果、永田・不入両窯で23基の須恵器窯が確認されている。段丘上面の発掘調査は、宅地造成にともない1984年に行われ、工房施設の可能性がある竪穴1基が検出されている。なお、これについては、「永田遺跡」として報告されている(田所1989b)。

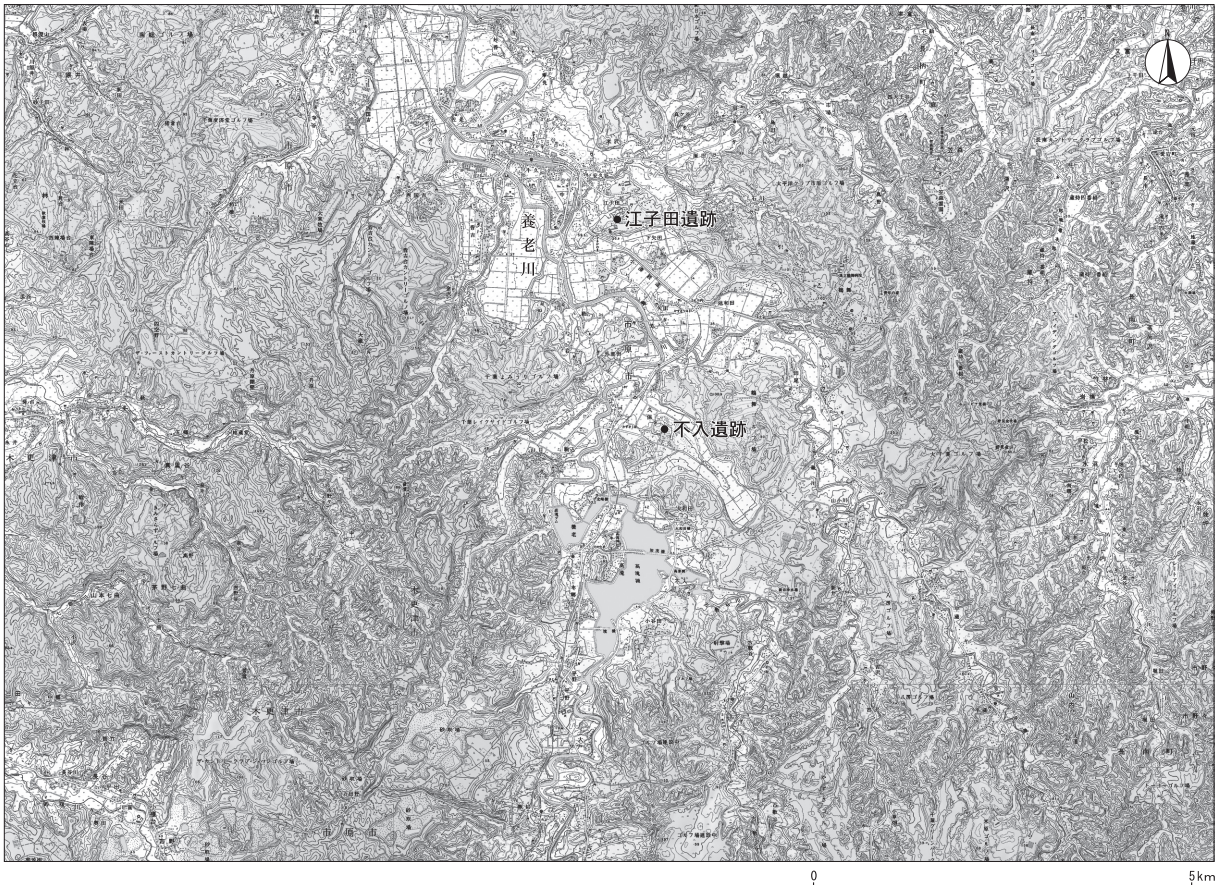
潤井戸西山遺跡は、過去3次(A ～ C地点)の発掘調査が行われている(鈴木1986、半田1992、高橋2004)。遺跡は、村田川左岸の低位段丘上に所在し、村田川へ向かって北へ突出する微高地の先端部近くに占地する。村田川流路は北約400mにあり、遺跡の東西は沖積低地がせまる。標高は概ね14 ～ 15m、沖積低地との比高は0.8 ～ 1.2mにすぎない。村田川流域の低位段丘面への集落の進出は、とくに弥生時代中期後半と古墳時代中期前半に活発となるが、本遺跡の土地利用状況にも同様の傾向が認められる。

本遺跡は弥生時代中期後半宮ノ台式期の環濠集落であるが、今回の調査区はそのほぼ中央部にあたる。周辺には、同時期の環濠ないしV字溝が確認されている草刈遺跡、大厩遺跡、大厩浅間様古墳下層遺跡などがあり、環濠集落群を形成している。また、本遺跡は、古墳時代の首長居館の可能性がある。

姉崎山新遺跡は、姉崎地区の海岸平野に形成された砂堆上に立地し、現地表面での標高は約6.5mを測る。本調査区の南西側約350mには、姉崎二子塚古墳が所在する。山新遺跡は、本調査地点に隣接する都市計画道路八幡椎津線の建設工事にともない、断続的に発掘調査が行われ、姉崎古墳群山新支群とも呼称すべき古墳群が検出されている。古墳群は、小規模の円墳からなり、2002・2003(平成14・15)年度の調査で10基が確認されており、今回調査区で確認された円墳1基を含め計11基となる(近藤2005)。砂堆上では、ほぼ同時期の集落も確認されており、また、姉崎二子塚古墳西側の上野台遺跡でも、古墳時代中期前半を中心とする竪穴住居跡4軒、円墳2基が検出されている(木對1990・1994)。当該地は、古墳時代前期後半から中期前半において、きわだった土地利用の痕跡を残しており、今後、集落跡と古墳群、姉崎二子塚古墳の変遷過程を明らかにする必要がある。



第1図　調査遺跡位置図(1)



第2図　調査遺跡位置図(2)

江子田遺跡は、養老川中流域右岸の台地上に立地し、今回の調査区周辺には金環塚古墳を主墳とする江子田古墳群が分布する。江子田古墳群は、総数40数基が知られていたが、失われた古墳も多い。金環塚古墳は、墳丘長47mを測る前方後円墳であり、1963年に行われた発掘調査によって、純金製耳環、鉄地金銅装の馬具類などの多様な副葬品が出土している(武田・永沼1985)。1984年には、「雪解沢遺跡」として県立市原園芸高校(現鶴舞桜が丘高等学校)グランド造成工事にともない再調査が行われ、楯形の二重周溝を呈することが明らかとなった(金丸1984)。また、この調査では、古墳時代前期の方形周溝墓、弥生時代後期前半の集落跡の存在も確認されている。1992年には、個人住宅建設にともない、江子田古墳群13号墳(江子田送り神塚)の調査が行われたが、これについては、近世の塚であることが明らかになった(浅利1993)。

郡本遺跡群は、市原台地の東京湾岸平野部に面する台地上に立地する。この地域は、台地平坦面のほぼ全域にわたって連続的に遺跡が展開しており、郡本遺跡群の現状登録範囲は南北1.7kmにおよぶ。範囲内には、上総国府、市原郡衙推定地や市原城があり、今回の調査地点に関連する可能性のある郡本向原貝塚などを含んでいる。また、上総国府関係推定地の調査では「古甲遺跡」、弥生時代中期の人面土器が出土した本調査区東台地縁辺部側については、「三嶋台遺跡」の呼称も用いられている。郡本地区は、都市計画区域内に所在することから、過去断続的に発掘調査が実施されており(木對1987、田中1995、小川1998、鶴岡1999など)、別に、上総国府、市原郡衙推定地の確認調査も行われている。遺跡の全体像はいまだ明らかではないが、今後実態を解明していく中で、遺跡名についても統一していく必要がある。

文献

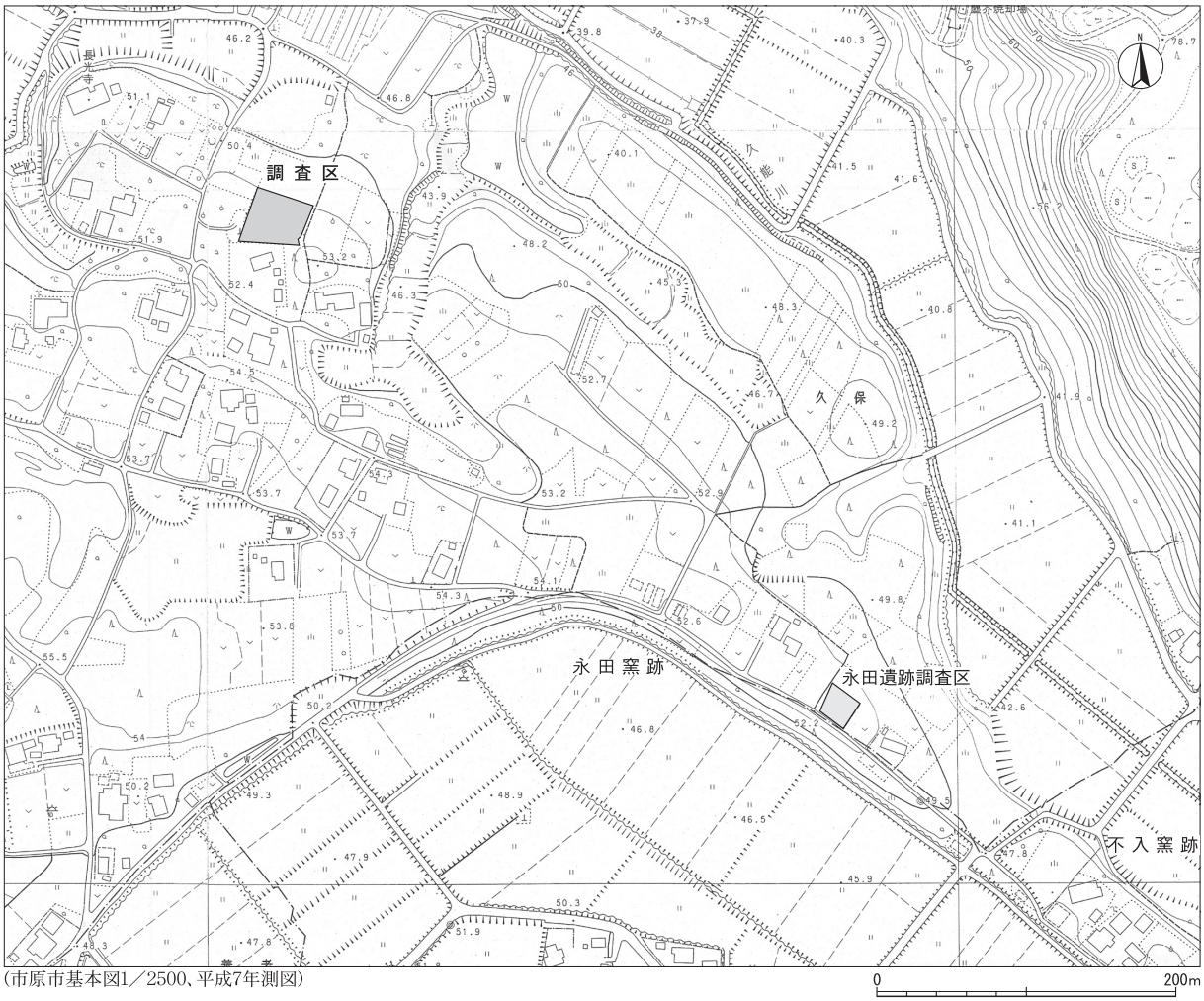
浅利幸一　1993「江子田送り神塚」『平成4年度市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
大川清他　1978『千葉県市原市・永田・不入須恵窯跡』考古学研究報告乙種第4冊　国士舘大学考古学研究室
小川浩一　1998「郡本遺跡(第3次)」『平成9年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
小川浩一　2005『市原市潤井戸西山遺跡D地点』財団法人市原市文化財センター調査報告書第95集
金丸誠　1984『市原市雪解沢遺跡　千葉県立市原園芸高校グランド造成に伴う埋蔵文化財調査報告書』財団法人千葉県文化財センター
郷堀英司・小林信一　1993『市原市永田窯跡群発掘調査報告書』千葉県教育委員会
木對和紀　1987『市原市郡本遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第14集
木對和紀　1990「姉崎上野合遺跡」『平成元年度市原市内遺跡群発掘調査報告』市原市教育委員会
木對和紀　1994「姉崎上野合遺跡」『市原市文化財センター年報平成元年度』
近藤敏　2005「姉崎山新遺跡(第3地点)」『市原市文化財センター年報平成15・16年度』
鈴木英啓　1986『市原市潤井戸西山遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第9集
半田堅三　1992『草刈尾梨遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第46集
高橋康男　2004『市原市潤井戸西山遺跡C地点』財団法人市原市文化財センター調査報告書第90集
武田宗久・永沼律朗　1985『上総江子田金環塚古墳発掘調査報告書』市原市教育委員会
田所真　1989a『市原市永田・不入窯跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第31集
田所真　1989b「永田遺跡」『市原市棒ヶ谷遺跡・永田遺跡・海士有木遺跡・北旭台遺跡・姉崎山谷遺跡・喜多高沢遺跡・辰巳ヶ原遺跡・原遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第32集
田中清美　1995『市原市郡本遺跡(第2次)』財団法人市原市文化財センター調査報告書第56集
鶴岡英一　1999『市原市郡本遺跡(第4次)』財団法人市原市文化財センター調査報告書第61集
森本和男　1995『市原市永田窯跡群第2次発掘調査報告書』千葉県教育委員会
山口直樹　1985『永田、不入窯跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第7集

2　不入遺跡の調査

墓地造成工事にともない、調査対象面積1,188.16㎡のうち118.8㎡について確認調査を実施した。本遺跡東側には、永田･不入窯跡が所在するが、今回の調査地点は、窯跡の分布範囲から若干距離をおくこともあり、関連遺構は検出されなかった。

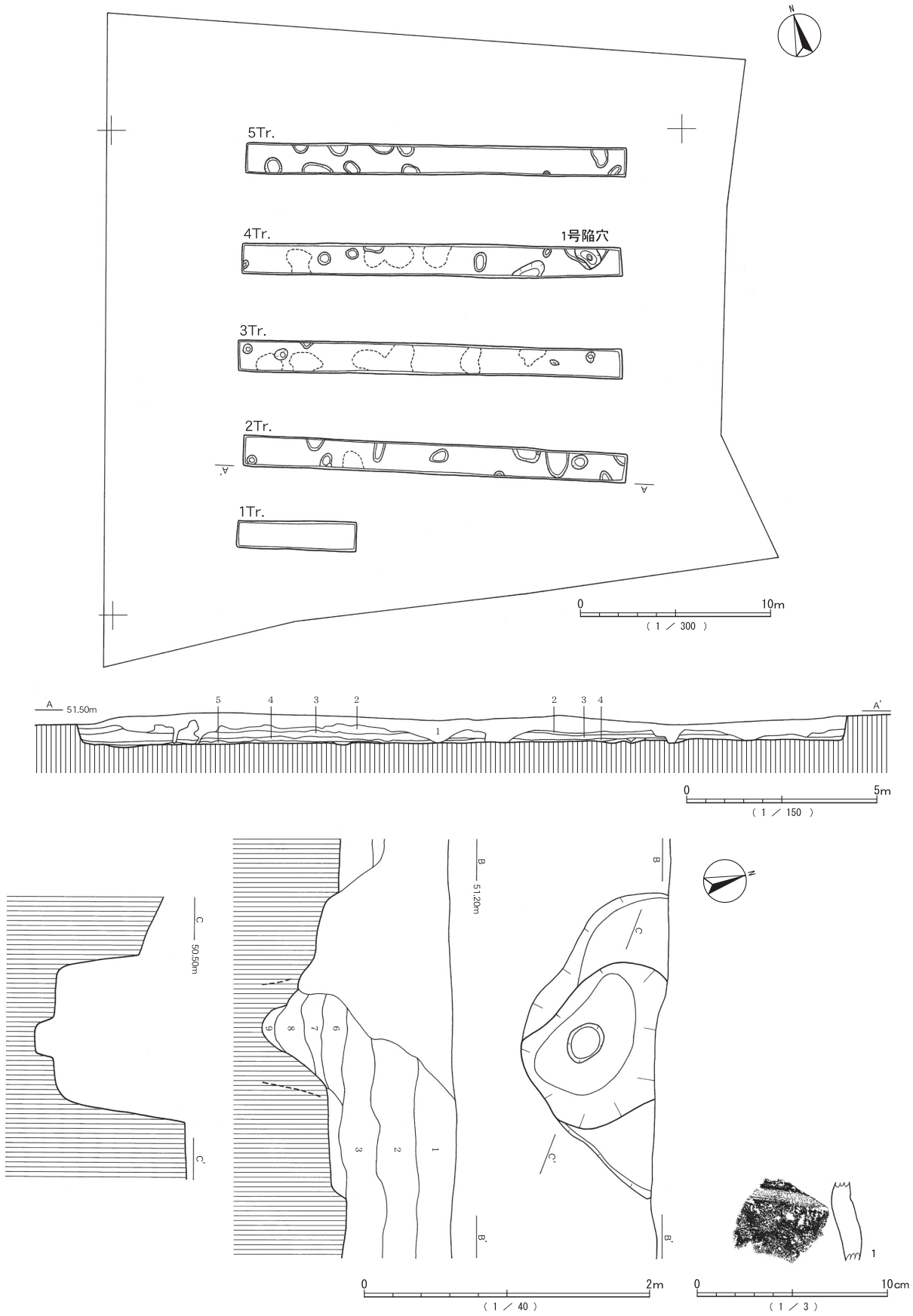
確認調査は、まず、任意の基準点を設置し、平行する5カ所のトレンチを設定して行った。任意基準(トレンチ方向)と真北方位との関係は、市原市基本図(1／2,500)との照合によればN－75°－W程度を測る。現状地盤はおおむね平坦であるが、確認面の標高はNo.5トレンチで50.02m、No.1トレンチで51.3m程度で、東西方向に若干傾斜をもつ。確認面までの深さは、No.5トレンチで90cm、No.1トレンチで40cm程度を測る。トレンチの基本土層は、1層が抜根によるカクランを含む表土層、2層が暗灰黒色土層、3層が暗黒色土層、4層が暗黒褐色土層、5層が暗褐色の漸移層である。調査前は林地であったため、抜根によるカクランは一部確認面におよんでいた(第4図平面図破線範囲)。確認面では、黒色土の落ち込みをすべて除去したが、遺構と考えられるものはNo.4トレンチの陥穴1基(1号陥穴)のみであった。

1号陥穴は、長軸長1.24m、短軸長1.10m、確認面からの深さ1.04m、長軸方位N－75°－Wを測り、



(市原市基本図1／2500、平成7年測図)

第3図　不入遺跡位置図



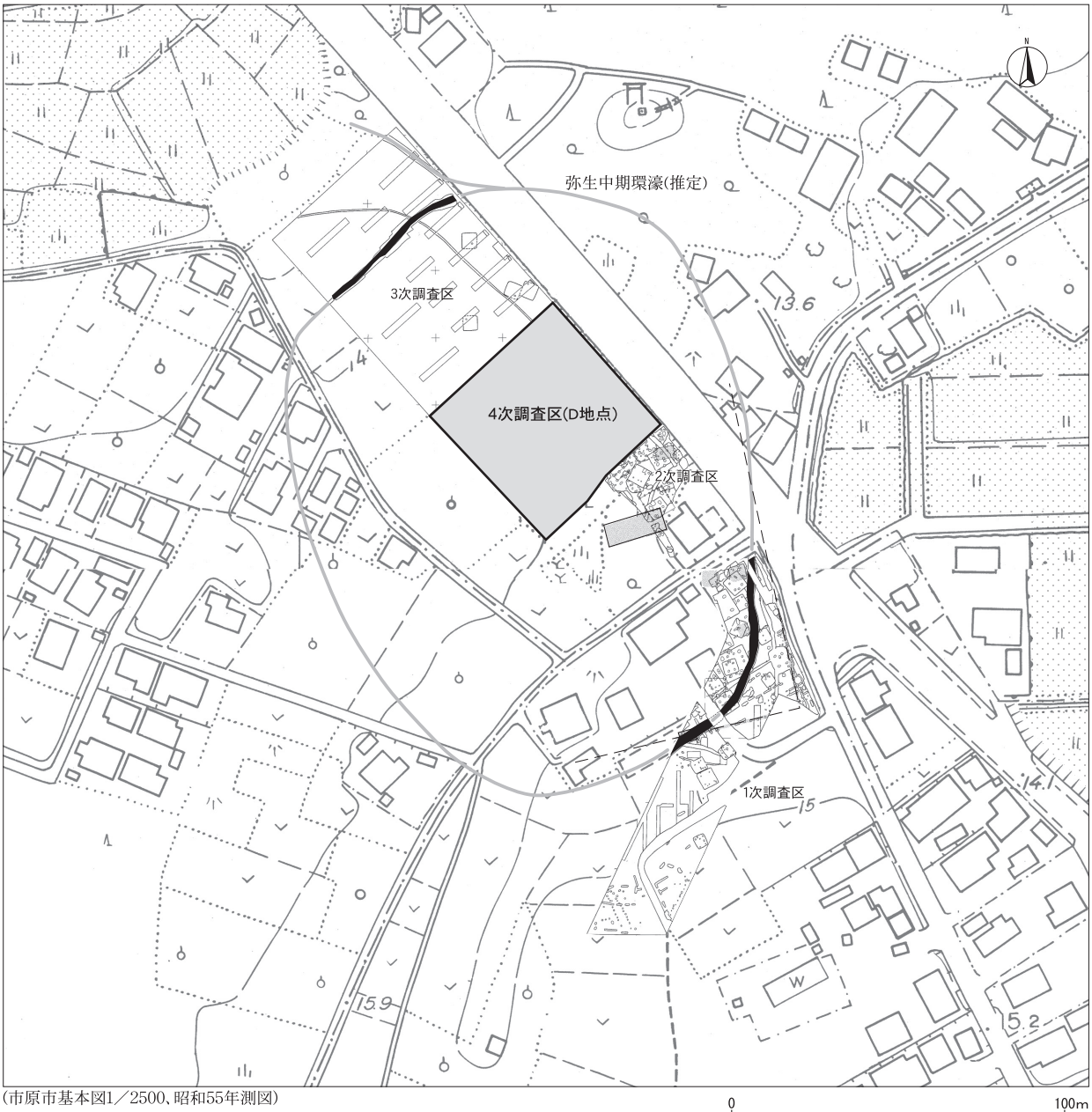
第4図　不入遺跡全体図・遺構図・出土遺物

底面中央部で深さ12cmの浅いPitを検出した。覆土土層は、6層が暗黒色土層、7～9層が暗褐色土層である。遺物は出土していない。

出土遺物は、調査区全体でも小破片数点であった。第4図1は、土師器甕形土器の頸部と推定されるものであり、口縁部側はヨコナデが施される。時期的には、古墳時代後期以降と推定される。なお、本報告でのトレンチNo.は、調査段階の呼称をそのまま使用しており、遺物注記と対応する。

3 潤井戸西山遺跡 D 地点の調査

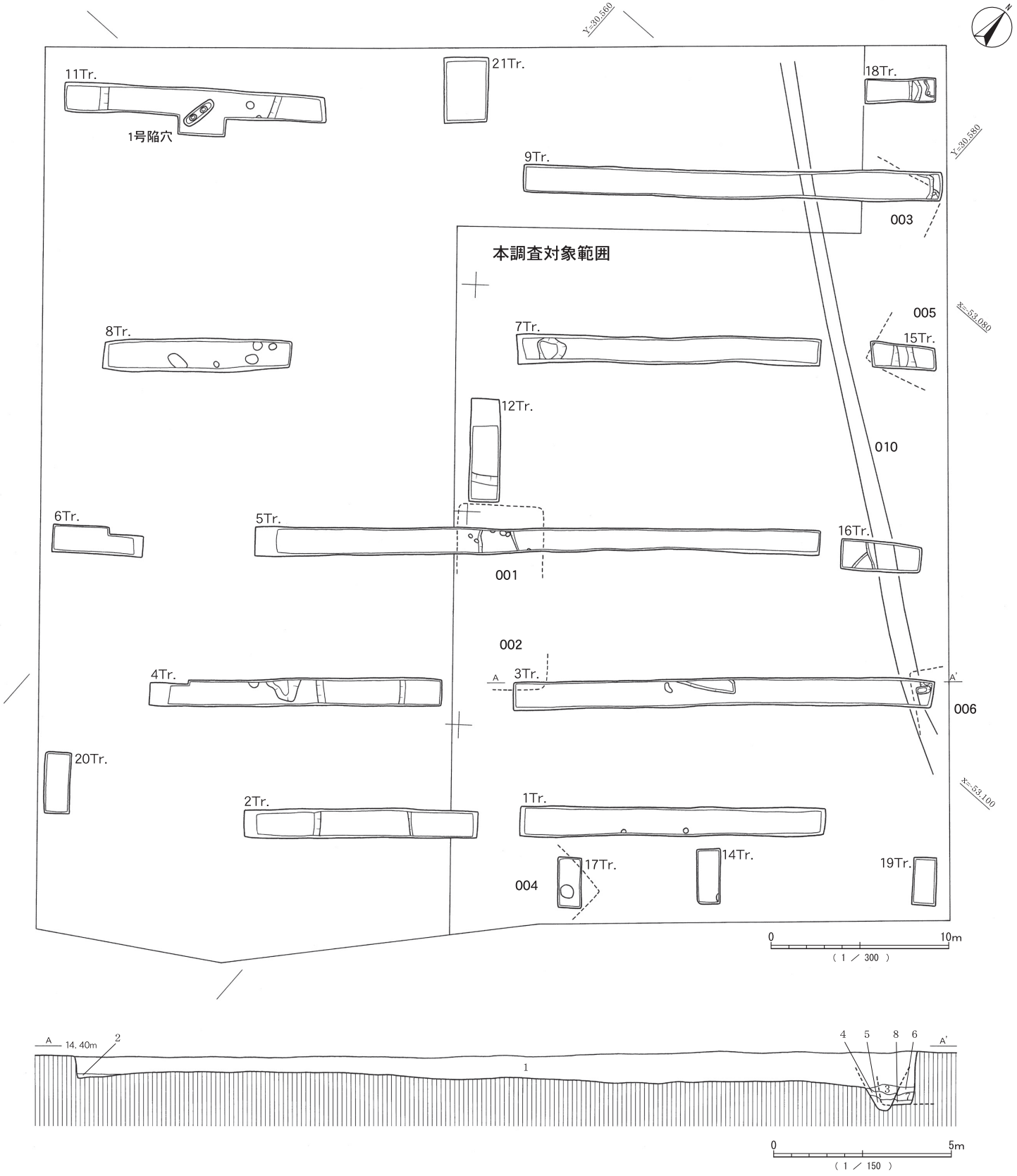
店舗建設にともない、調査対象面積2,500㎡のうち250㎡について確認調査を実施した。確認調査は、まず、任意の基準点を設置し、平行するトレンチを設定して行った。任意基準(トレンチ方向)と真



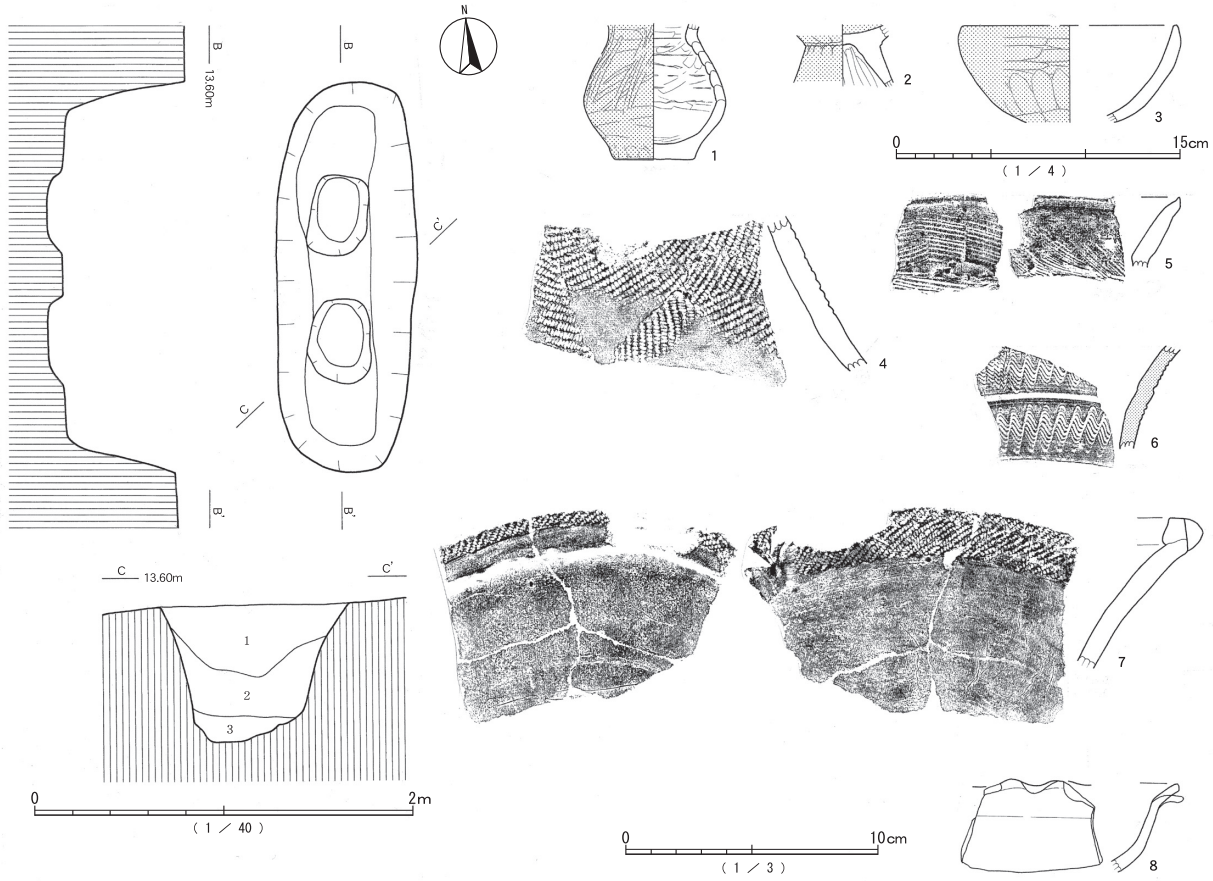
(市原市基本図1／2500、昭和55年測図)

0 100m
(1 ／ 2,000)

第5図　潤井戸西山遺跡全体図



第6図　潤井戸西山遺跡D地点全体図



第7図　潤井戸西山遺跡D地点遺構図・出土遺物

北方位との関係は、N－51°－Eを測る。トレンチは、No.1 ～ 21まで21カ所を設定したが、実際には、No.11・13をのぞく19カ所について確認調査を実施した。なお、本報告でのトレンチNo.は調査段階の呼称をそのまま使用しており、遺物注記と対応する。

今回の調査区は、弥生時代中期末の環濠集落のほぼ中央部にあたるが、調査の結果、過去に、徹底した破壊が行われていたため、遺構の遺存状況はきわめて不良であった。断片的に検出された遺構は、調査対象区北東側を中心として、竪穴住居跡6軒(001 ～ 006号跡)、溝1条(010号跡)、縄文時代の陥穴1基(1号陥穴)であるが、これは、おそらく本来存在していたであろう遺構のごく一部であると思われる。1次調査で検出された四脚門に接続する柱穴列も認められなかった。竪穴住居跡が分布する調査対象区北東側については、事業者側の負担により本調査を実施している。第6図遺構No.については、1号陥穴をのぞき、本調査報告No.を使用した。第6図土層断面については、1層が天地返し状の大小ロームブロックを含むカクラン層、2層が暗褐色土層、3 ～ 5層は010号跡(溝)覆土、6 ～ 8層は006号跡(竪穴住居跡)覆土であり、黒褐色土を基調とする。

検出された竪穴住居跡は、弥生時代終末期から古墳時代前期前半、中期前半、後期に比定される。溝010号跡についても、古墳時代後期に遡る可能性がある。各遺構の詳細については、本年度末に本調査の報告書が刊行予定であり(小川2005)、それを参照願いたい。なお、確認調査では、No.11トレンチの1号陥穴について、遺構の性格を明らかにするために、結果として完掘することとなった(第7図)。確認面での平面規模は2.05×0.73m、深さ0.64mであり、長軸方位はN－12°－Eを測る。底

面には深さ10cm程度の浅いPit状の掘り込みが認められた。覆土は、1・3層が黒褐色土を、2層が暗褐色土を基本とする。遺物は出土していない。

第7図遺物は、本調査対象外から出土したものを掲載した。いずれも遺構にともなうものではない。出土土器は、弥生時代中期宮ノ台式、弥生時代終末期から古墳時代前期、古墳時代中期前半から後期を主体とし、過去の調査で検出された遺構時期におおむね対応する。なお、第7図8は、中世志野の反り皿である。

文献

小川浩一　2005『市原市潤井戸西山遺跡Ｄ地点』財団法人市原市文化財センター調査報告書第95集

4　姉崎山新遺跡の調査

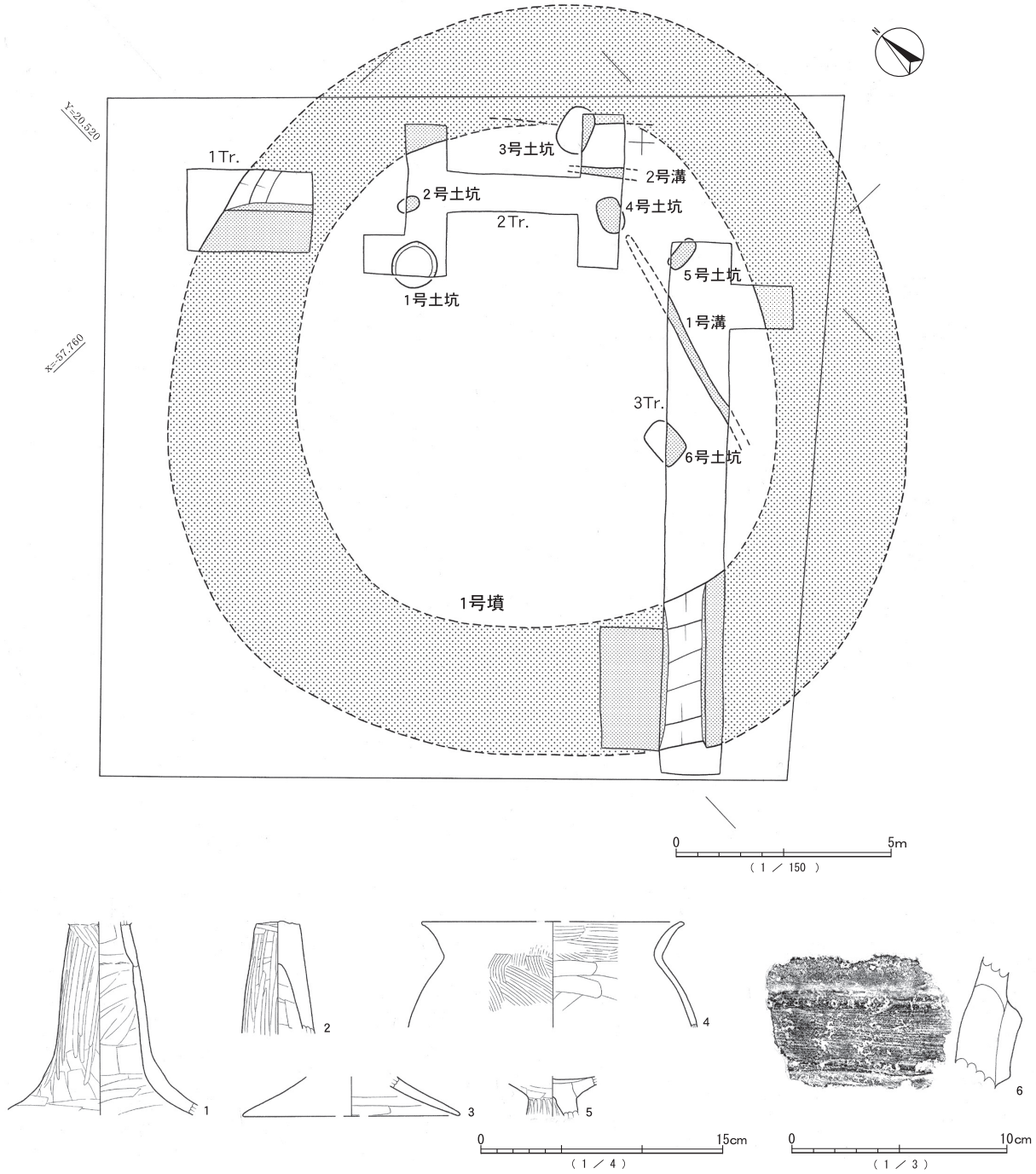
個人住宅建設にともない、258.13㎡のうち26㎡について確認調査を実施し、このうち工事影響範囲3㎡について本調査を実施した。

確認調査は、調査対象区域の北東、南東辺側に3トレンチを設定し、遺構の検出状況に合わせこれを順次拡張して、遺構の範囲、性格の把握に努めた。本調査範囲は、No.1トレンチ北東側を対象としている。

調査の結果、古墳1基(1号墳)、土坑6基、溝2条が検出された。1号墳は円墳と考えられ、推定規模は、

(市文化財センター年報(近藤2005)より、一部改図)

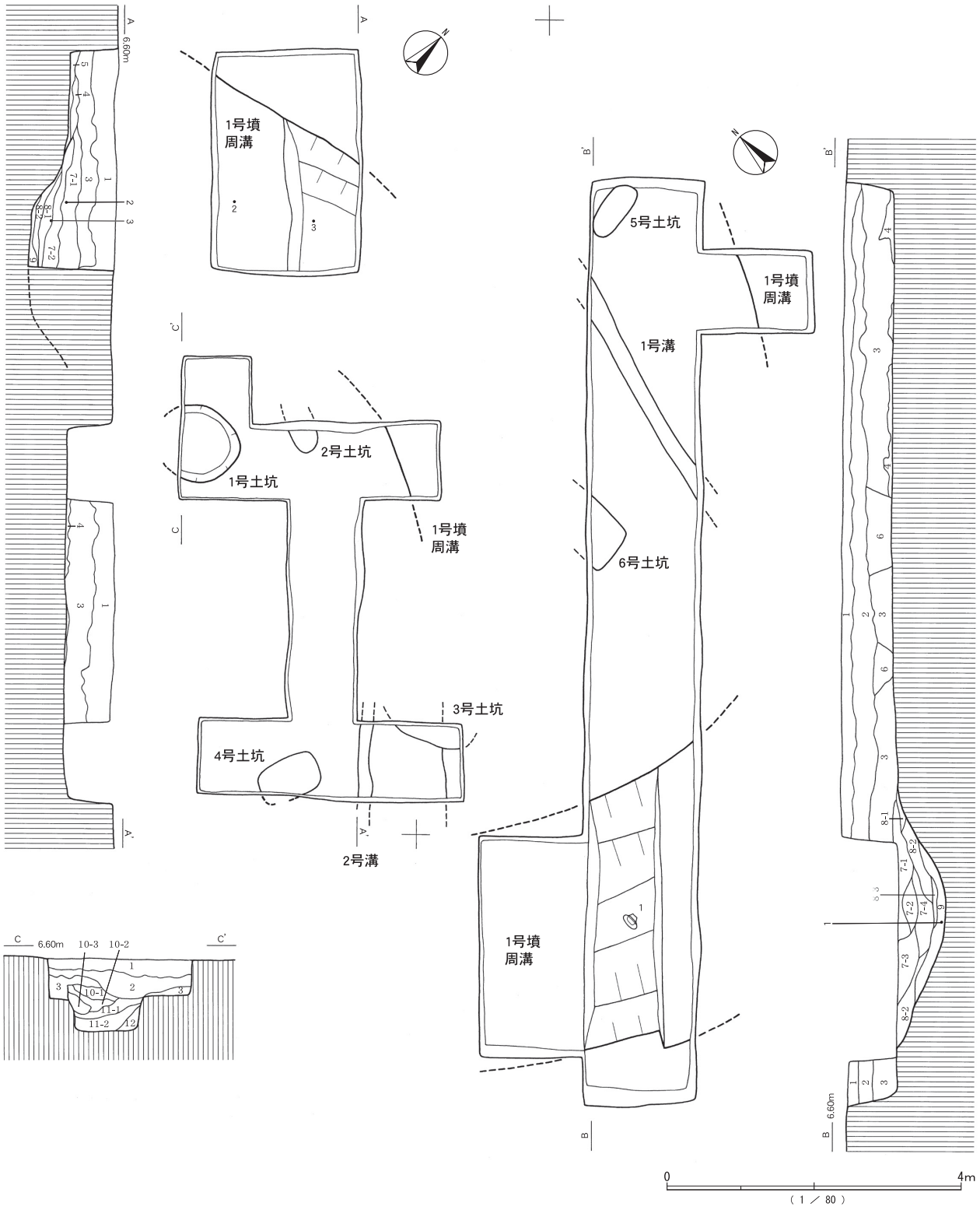
第8図　姉崎山新遺跡位置図



第9図　姉崎山新遺跡全体図・出土遺物

墳丘部（周溝底内側間）約13.2m、確認面墳丘部径約12.1m、確認面周溝外径約17.8mを測る。墳丘は遺存していない。確認面からの周溝の深さは、No.3トレンチで約0.64mを測る。

出土遺物は、第9図1がNo.3トレンチ周溝底面より、2がNo.1トレンチ周溝確認面、3がNo.1トレンチ周溝覆土中位より出土しており、いずれも土師器高杯形土器脚部である。土師器甕形土器4、埴輪6はNo.3トレンチ一括、土師器高杯形土器5はNo.1トレンチ一括出土である。6は、幅広の凸帯をもつ埴輪であり、現存部分では内外面ともハケは認められない。これらの出土遺物のうち、1は時期比



第10図　姉崎山新遺跡遺構図

定がやや難しいものの、2～5は、古墳時代前期末に比定することができる。周溝内出土土器は、高杯形土器を主体とすることから、本古墳にともなう可能性を想定しておきたい。

他の土坑、溝については、時期を明確にすることはできない。ただし、灰色系の覆土をもつ1・3・4・6号土坑、2号溝については、近世以降と推定され、それ以外については、近世以前に遡る

可能性がある。とくに、2・5号土坑の覆土は、1号墳周溝に近似する。

土層は、1・2層が灰色砂層、3層が暗灰色砂層、地山層である5層が橙色砂層であり、4層暗橙色砂層はその漸移層である。6層は近世以降の掘り込みによると推定される暗灰色砂層である。1号墳周溝覆土7層は黒褐色砂層、8・9層は暗橙色砂層であり、8-3層には若干の焼土粒が認められた。1号土坑覆土10・12層は暗橙色砂層、11層は極暗灰色砂層である。

なお、本報告でのトレンチNo.は、調査段階の呼称をそのまま使用しているが、遺構No.については振り直している。ただし、古墳No.、地点名については、今後、隣接する都市計画道路関係の発掘調査、整理作業の進捗にともない、統一的な呼称に変更すべき必要があると思われる。

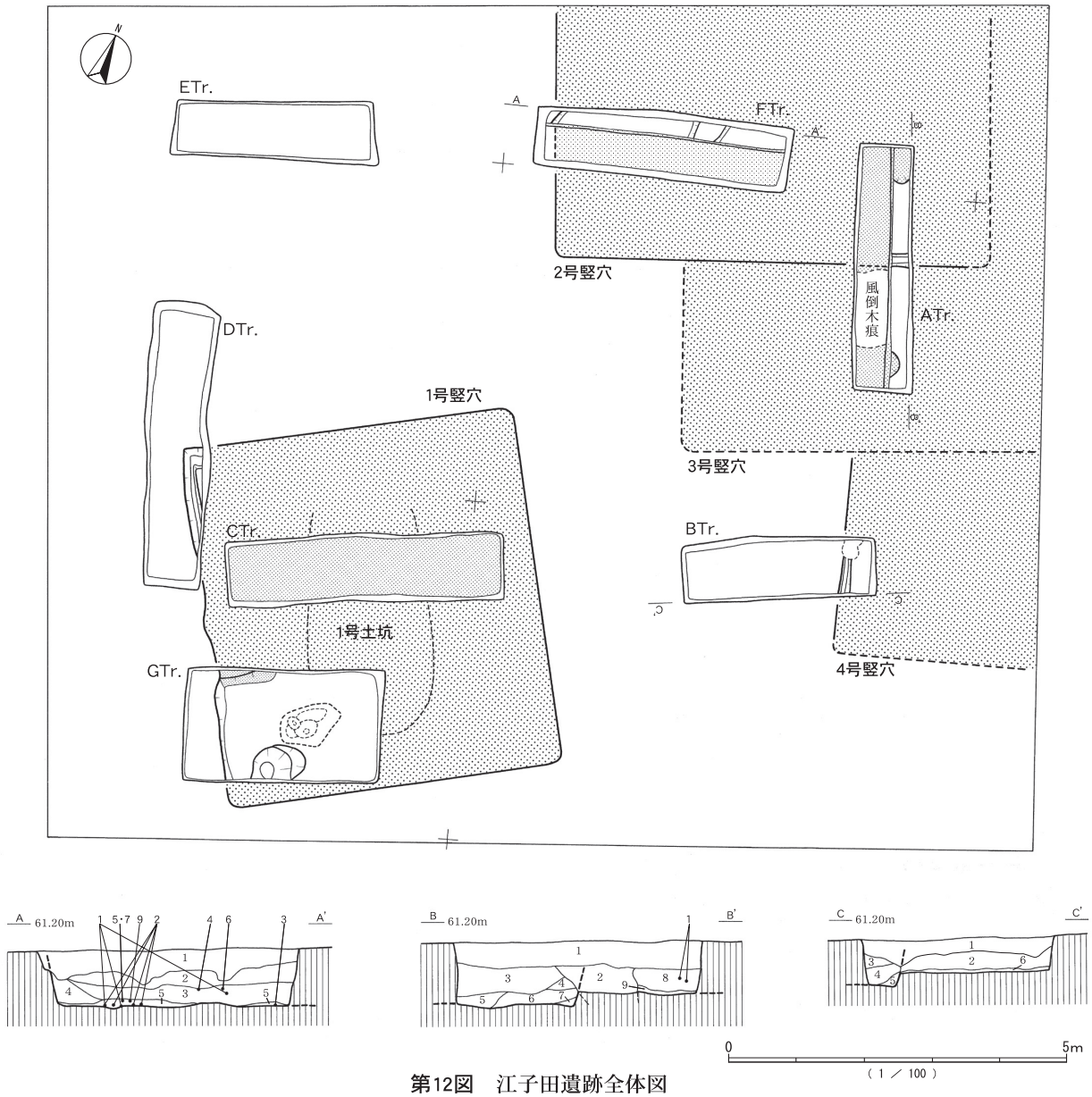
5 江子田遺跡の調査

個人住宅建設にともない、162.17㎡のうち16㎡(確認調査)、4.7㎡(本調査)について発掘調査を行った。事前に行われた試掘の結果、浄化槽設置位置に竪穴住居跡が検出されていたため、この部分(Gトレンチ)については本調査を実施した。

調査は、まず、任意の基準点を設置し、AからGの7カ所のトレンチを設定して行った。任意基準

(市原市基本図1／2500、昭和55年測図)

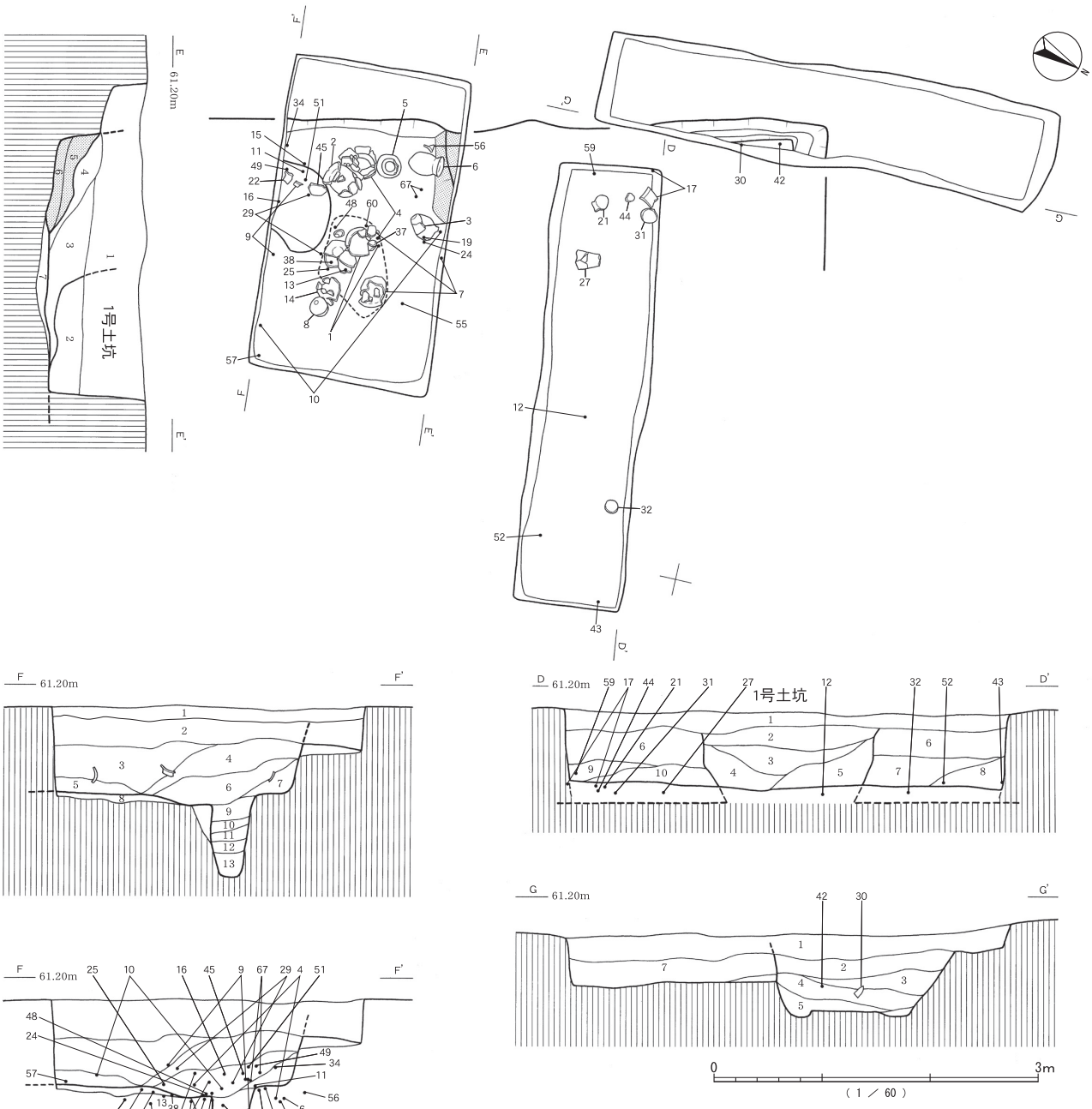
第11図　江子田遺跡位置図



第12図　江子田遺跡全体図

断面	No.	特　徴	備　考
A-A'	1	砂層、円礫を多量に含む褐色土層	
	2	暗褐色(7.5YR3/4)、ハードローム粒、赤色粒をわずかに含む、粘性ややあり、しまり強	2号竪穴
	3	黒褐色(7.5YR3/2)、ロームを斑状にわずかに含む、粘性ややあり、しまり強	2号竪穴
	4	暗褐色(7.5YR3/3)、ローム粒を少量含む、粘性ややあり、しまり強	2号竪穴
	5	暗褐色(7.5YR3/4)、粗いローム粒、焼土粒、炭化粒をやや多く含む、粘性ややあり、しまりやや強	2号竪穴
B-B'	1	砂層、円礫を多量に含む褐色土層	
	2	暗褐色土	
	3	暗褐色(7.5YR3/3)、ローム粒を少量含む、焼土粒をわずかに含む、粘性ややあり、しまりやや強	2号竪穴
	4	暗褐色(7.5YR3/4)、粗いローム粒をやや多く含む、粘性ややあり、しまりやや強	2号竪穴
	5	黒褐色(7.5YR2/3)、ローム粒、焼土粒、炭化材を少量含む、粘性ややあり、しまり強	2号竪穴
	6	黒褐色(7.5YR2/3)、粗いハードローム粒を少量含む、粘性ややあり、しまり強	2号竪穴
	7	暗褐色(7.5YR3/4)、ローム粒をやや多く含む、粘性ややあり、しまりやや強	2号竪穴
	8	暗褐色(7.5YR3/3)、粗いローム粒を少量含む、粘性ややあり、しまり強	3号竪穴
	9	暗褐色(7.5YR3/4)、ローム粒をやや多く含む、粘性ややあり、しまり強	3号竪穴
C-C'	1	砂層、円礫を多量に含む褐色土層	
	2	暗褐色土	

断面	No.	特　徴	備　考
C-C'	3	暗褐色(7.5YR3/3)、粗いローム粒を少量含む、粘性やや弱、しまり強	4号竪穴
	4	黒褐色(7.5YR3/2)、ローム粒をわずかに含む、粘性やや弱、しまりやや強	4号竪穴
	5	暗褐色(7.5YR3/4)、粗いローム粒を多く含む、粘性やや弱、しまりやや弱	4号竪穴
	6	ローム漸移層	
D-D'	1	砂層、円礫を多量に含む褐色土層	
	2	黒褐色(7.5YR3/2)、ローム粒をわずかに含む、粘性ややあり、しまり強	1号土坑
	3	暗褐色(7.5YR3/3)、褐色土を斑状に少量含み、ローム粒がまじる、粘性弱、しまり強	1号土坑
	4	暗褐色(7.5YR3/3)、褐色土を斑状に少量含み、ハードロームブロックがまじる、粘性ややあり、しまりやや弱	1号土坑
	5	黒褐色(7.5YR3/2)、褐色土を斑状にわずかに含み、ハードロームブロックがまじる、粘性ややあり、しまりやや弱	1号土坑
	6	黒褐色(7.5YR3/2)、ローム粒、赤色粒を少量含む、粘性ややあり、しまり強	1号竪穴
	7	暗褐色(7.5YR3/3)、褐色土を斑状に少量含み、ハードローム粒がわずかにまじる、粘性ややあり、しまりやや強	1号竪穴
	8	暗褐色(7.5YR3/3)、褐色土を斑状にわずかに含む、粘性ややあり、しまりやや弱	1号竪穴
	9	黒褐色(7.5YR3/2)、褐色土を斑状にわずかに含む、粘性ややあり、しまり強	1号竪穴
	10	暗褐色(7.5YR3/3)、褐色土を斑状に少量含み、橙色粒がまじる、粘性ややあり、しまり強	1号竪穴

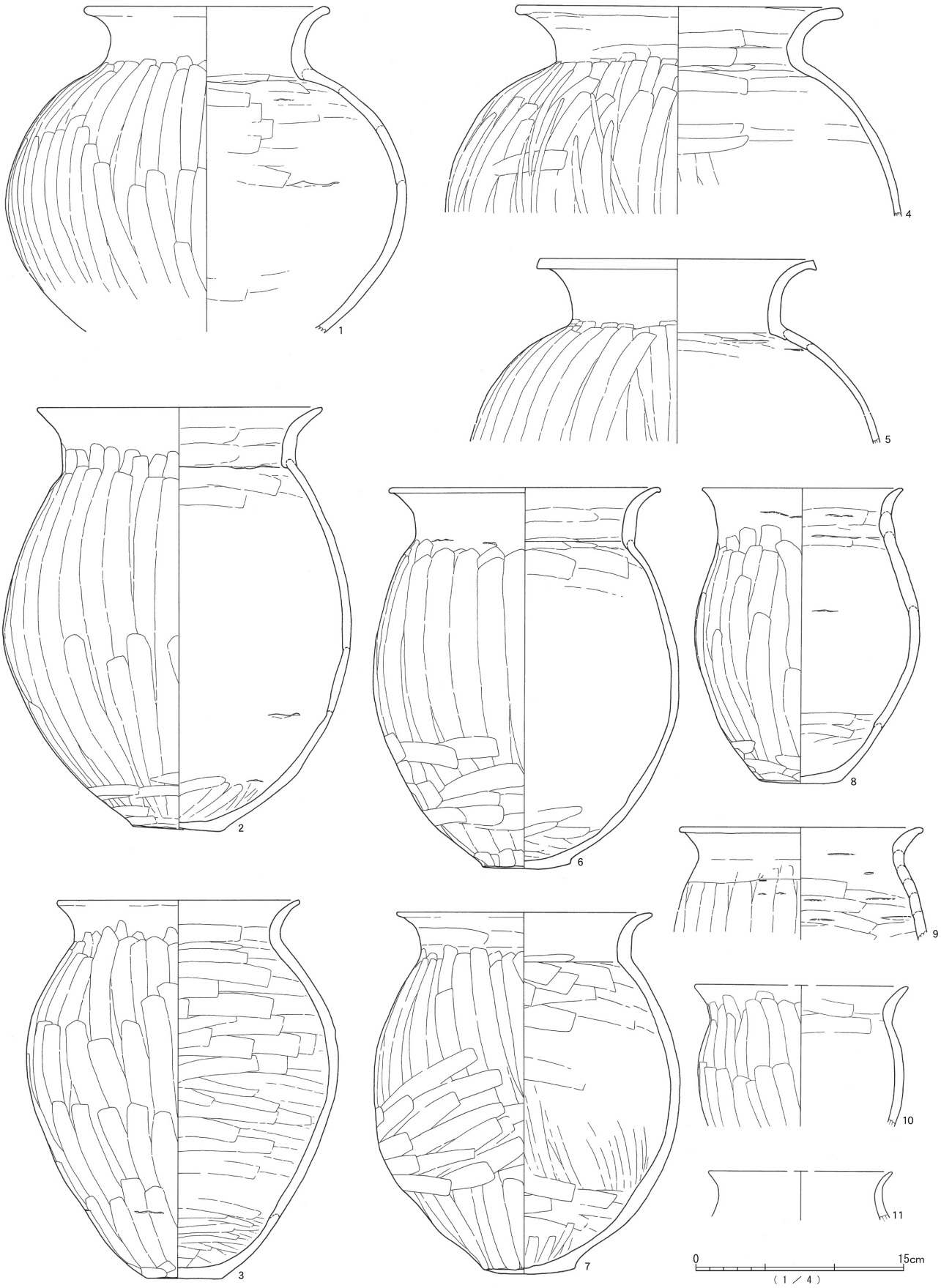


第13図　江子田遺跡1号竪穴遺構図

断面	No.	特　徴	備　考
E-E'	1	円礫を多量に含む褐色土、カクラン	
	2	暗褐色(7.5YR3/3)、褐色土を斑状に少量含み、粗いハードローム粒がまじる	1号土坑
	3	暗褐色(7.5YR3/4)、褐色土を斑状に少量含み、山砂、焼土粒をわずかに含む	1号竪穴
	4	暗褐色(7.5YR3/4)、3層に比べ山砂、焼土の割合が多い	1号竪穴
	5	褐色(7.5YR4/4)、山砂を主体	1号竪穴カマド
	6	暗赤褐(5YR3/4)、山砂ブロック、焼土ブロックをやや多く含む	1号竪穴カマド
	7	褐色(7.5YR4/3)、山砂ブロックをやや多く含み、焼土ブロックがまじる	1号竪穴貼床
F-F'	1	円礫を多量に含む褐色土、カクラン	
	2	暗褐色土層	1号竪穴
	3	暗褐色(7.5YR3/3)、ハードローム粒、焼土粒を少量含む	1号竪穴
	4	暗褐色(7.5YR3/4)、褐色土を斑状にわずかに含み、ハードローム粒がまじる	1号竪穴
	5	暗褐色(7.5YR3/4)、褐色土を斑状にやや多く含み、ハードローム粒がまじる	1号竪穴
	6	暗褐色(7.5YR3/4)、褐色土を斑状にやや多く含み、ハードローム粒がまじる	1号竪穴

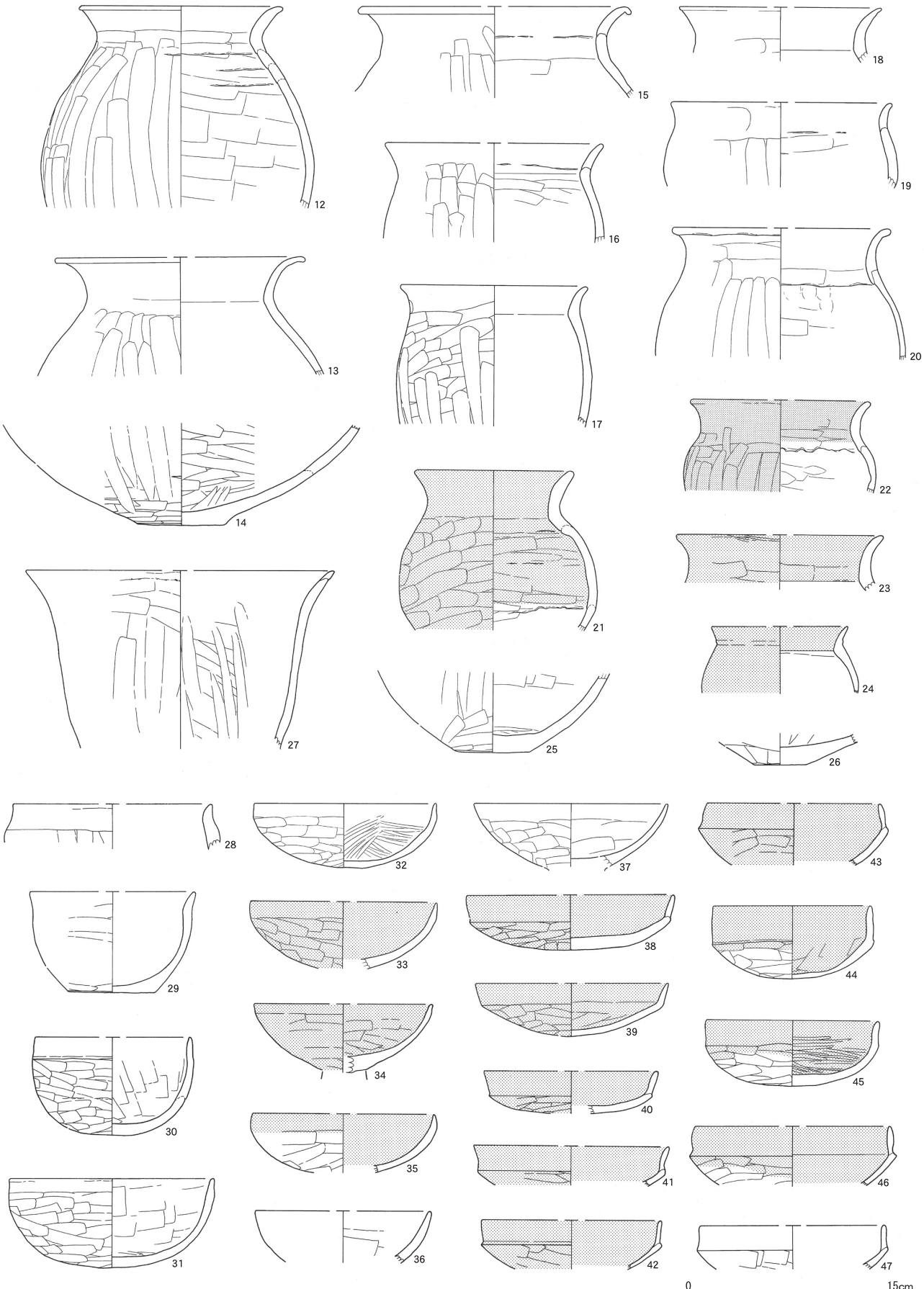
断面	No.	特　徴	備　考
F-F'	7	暗褐色(7.5YR3/3)、ハードロームブロックを少量含む	1号竪穴
	8	暗褐色(7.5YR3/4)、ハードロームブロックを多く含む	1号竪穴貼床
	9	黒褐色(7.5YR3/2)、ハードロームブロックをわずかに含む	1号竪穴
	10	暗褐色(7.5YR3/4)、ハードロームブロックを多く含む	1号竪穴
	11	黒褐色(7.5YR3/2)、ハードローム粒をわずかに含む	1号竪穴
G-G'	1	砂質、埋め土、褐色土層、円礫を多量に含む	
	2	暗褐色(7.5YR3/3)、ロームを斑状に少量含む、粘性ややあり、しまり強	1号竪穴
	3	黒褐色(7.5YR3/2)、ロームを斑状にわずかに含む、粘性ややあり、しまり強	1号竪穴
	4	暗褐色(7.5YR3/4)、ロームを斑状にやや多く含み、焼土粒がまじる、粘性ややあり、しまりややや強	1号竪穴
	5	褐色(7.5YR4/3)、粗いローム粒を多く含む、粘性ややあり、しまりややや強	1号竪穴
	7	暗褐色(7.5YR3/3)、暗褐色土層、ハードローム粒を少量含む、粘性ややあり、しまり強	

1号竪穴



第14図　江子田遺跡出土遺物(1)

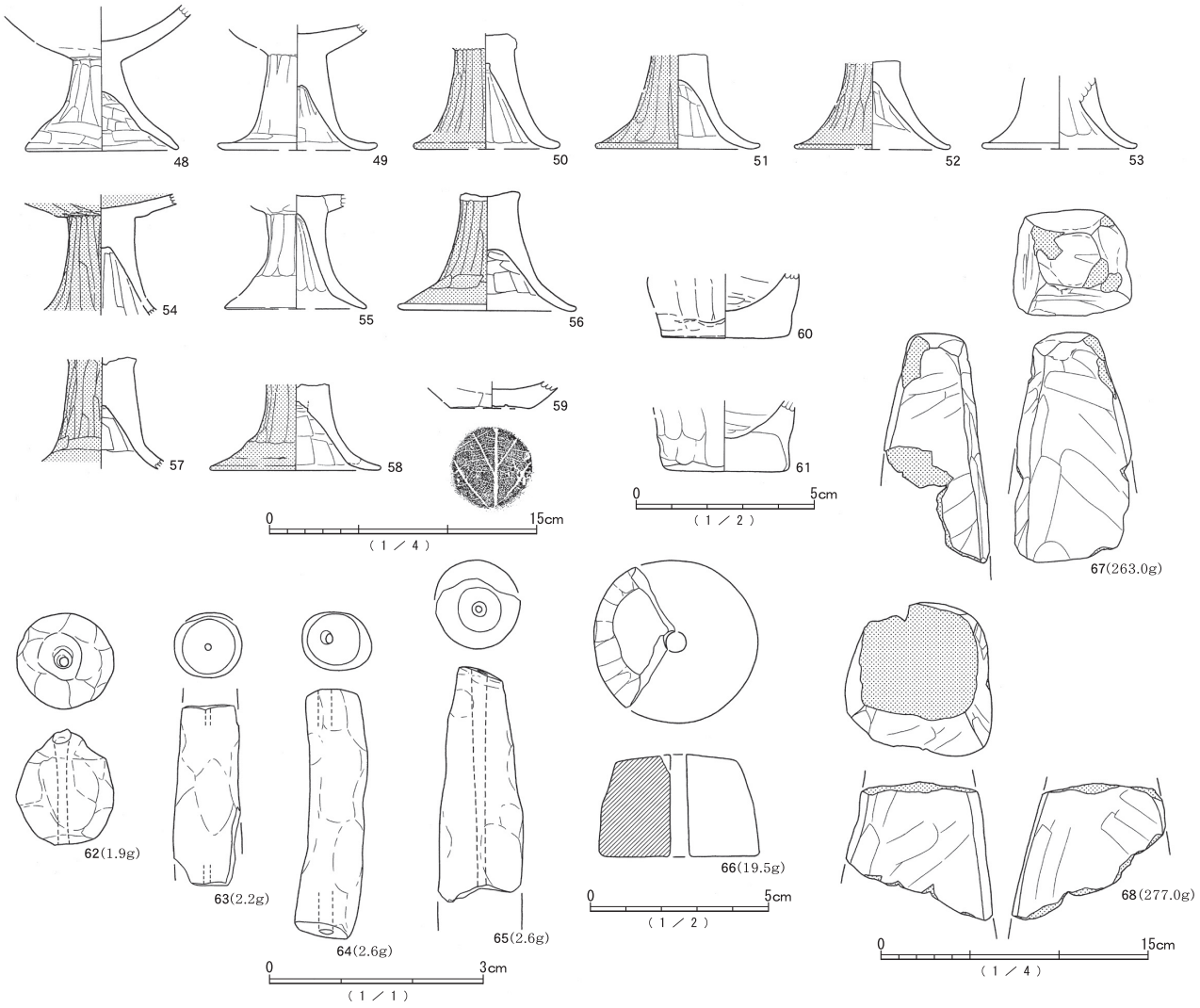
1号竪穴



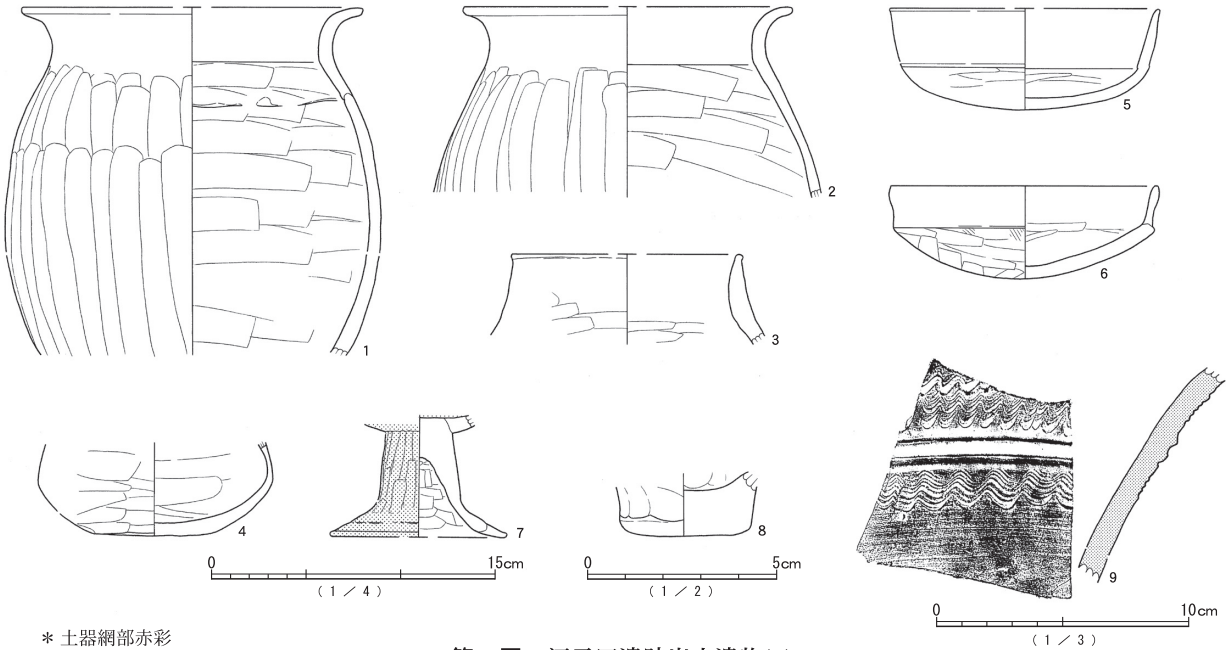
＊土器網部赤彩

第15図　江子田遺跡出土遺物(2)

1号竪穴



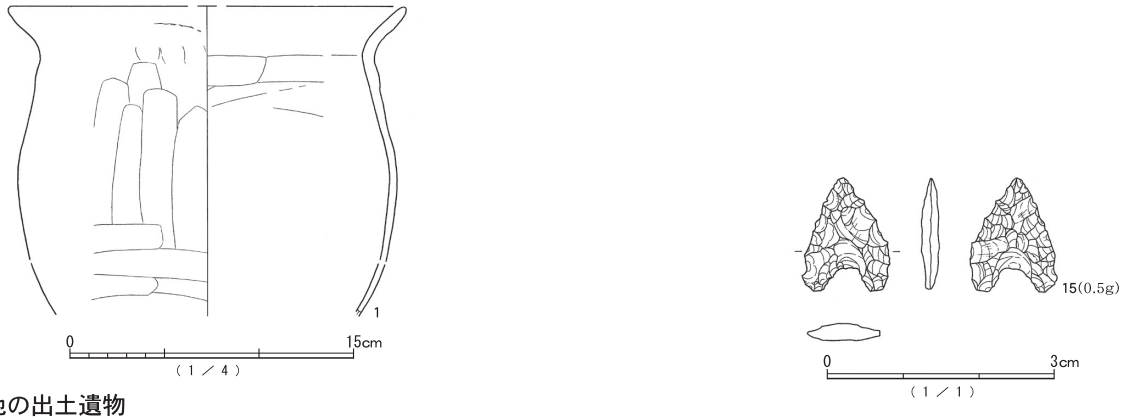
2号竪穴



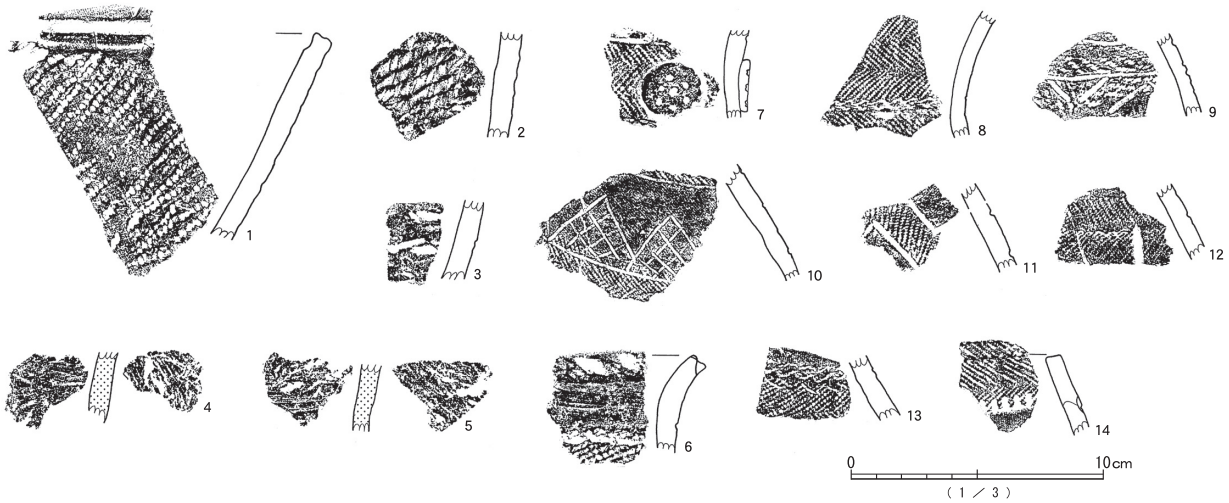
＊土器網部赤彩

第16図　江子田遺跡出土遺物(3)

3号竪穴



その他の出土遺物



第17図　江子田遺跡出土遺物(4)

(トレンチ方向)と真北方位との関係は、市原市基本図(1／2,500)との照合によればN－72°－E程度を測る。今回の調査区は、過去に地盤改良が行われていたようであり、砂、円礫等による客土が全体にみられたが、遺構の遺存状況は比較的良好であり、調査の結果、Eトレンチをのぞく他すべてのトレンチより遺構が検出された。全体形状が明らかではないものもあるが、検出遺構数は、竪穴住居跡4軒、土坑1基である。調査は、本調査部分にあたるGトレンチは貼床下まで完了し、Dトレンチについても、竪穴住居跡隅部分を把握するために、床面まで調査を行っている。Bトレンチについては、遺構検出部分が少なかったため、遺構の性格を明らかにするために床面まで掘り下げた。A・Fトレンチは、トレンチ内の一部のみ床面まで掘り下げた。竪穴住居跡中央部分にあたったCトレンチは、工事影響範囲まで覆土内の調査を行った。

1号竪穴は、おおむね規模形状が推定できる。Gトレンチでカマド左袖部が検出されており、西側にカマドをもち、カマドを基準とした方位はN－119°－Wを測る。竪穴規模は、試掘調査の際、Cトレンチ東側で東辺位置を確認しており、東西軸長4.95mを測る。Dトレンチでは、北西隅部が検出されており、推定カマド中心線で反転した場合の南北軸長は5.4m程度となる。ただし、Gトレンチ南端のPitを主柱穴とした場合、竪穴南西隅部に寄りすぎているようにもみえる。このPitの深さは、76cmを測る。Gトレンチ中央部分のPitは、貼床下から検出されたものである。このPitの深さは、78cmを測る。竪穴部分の確認面からの深さは45cm程度であり、Dトレンチでは、壁下で周溝を検出

している。1号竪穴では、部分的な調査にもかかわらず、多量の遺物が出土した。完形土器については、甕形土器が主体となるが、これはカマド左脇部分のみが本調査対象となったことと関係する可能性が高い。ほぼ完形の甕形土器である2・3・6・7・8は、床面に倒れた状態で出土している。体部上半のみの4・5も、床面に据え置いたような状態で検出されており、器台的な用途で再利用されたものと推定される。杯・高杯形土器は、31・44がほぼ完形である以外は大半が破片資料であり、高杯形土器は杯部と脚部がほとんど接合しなかった。これら土器の出土位置は、床面から覆土下層を中心とするが、前述した甕形土器をのぞくと、遺存遺物と破棄によるものを明確に区分することは難しい。他に、土製品が出土している。67・68は土製支脚でありカマド袖脇より出土している。全体に劣化し接合しないものの、同一個体と推定される。62は土玉、63 ～ 65は土管、66は土製紡錘車である。79・80は、貼床下からの出土、62・66は試掘時に出土している。写真図版8掲載の炭化種実遺体は、甕形土器第15図7内の土壌の洗浄によって検出されたものである。鑑定は行っていない。

1号土坑は、1号竪穴内にあり、土層断面図において確認した。深さは、1号竪穴とほぼ同レベルであると推定され、1号竪穴Gトレンチでは、重複部分の出土遺物が明らかに少なく、1号土坑によって破壊されたことが推定できる。時期、性格などは不明。

2 ～ 4号竪穴については、部分的な調査であったため、規模等明らかではない。2・3号竪穴については、出土土器から、1号竪穴と近接する時期の所産と考えられる。新旧関係は、風倒木痕の重複によりやや不確実ではあるが、2号竪穴が新しい。4号竪穴についも、一応古墳時代後期と推定しておくが、調査時の所見として、覆土の状況が他の竪穴とは異なるため、近隣での出土遺物から弥生時代後期の所産である可能性も考えられる。

第17図その他の遺物は、遺構外および遺構にともなわない遺物をまとめた。1 ～ 6は縄文土器であり、4・5が早期条痕文系であり、6が前期末ないし中期初頭、1が後期と推定される。無節縄文による2・3は、時期が明確ではない。15は、黒曜石製の石鏃である。7 ～ 14は弥生土器であり、後期中葉山田橋1式を中心とする。安房系の影響が認められる。

6　郡本遺跡群の調査

(1) 調査の概要

個人住宅建設にともない、調査対象面積460.02㎡に対して確認調査を実施した。今回の調査区は、小支谷の谷頭部分にあたり、全体に緩傾斜が認められる。現地は、建物部分に整地済みの盛土の他、庭木、耕作物があり、早急に対処が可能な調査部分が限られていた。協議の結果、まず、12㎡をめどとして現状での調査可能部分について確認調査を行うこととし、その状況をみて、必要であれば確認調査の追加、および本調査を行うこととした。

調査は、まず、任意の基準点を設置し、2カ所のトレンチを設定して行った。任意基準と真北方位との関係は、市原市基本図(1／2,500)との照合によればＮ－62°－Ｗ程度を測る。

事前に行われた試掘の結果、遺物、貝層が認められたため、確認調査を実施することとなったが、調査の結果、土層の堆積は、プライマリーのものとはとらえられなかった。No.1トレンチ1層は客土層であり、2・3層はローム粒、大小ロームブロックを多量に含み、締まりが全く認められなかった。

第18図　郡本遺跡群位置図

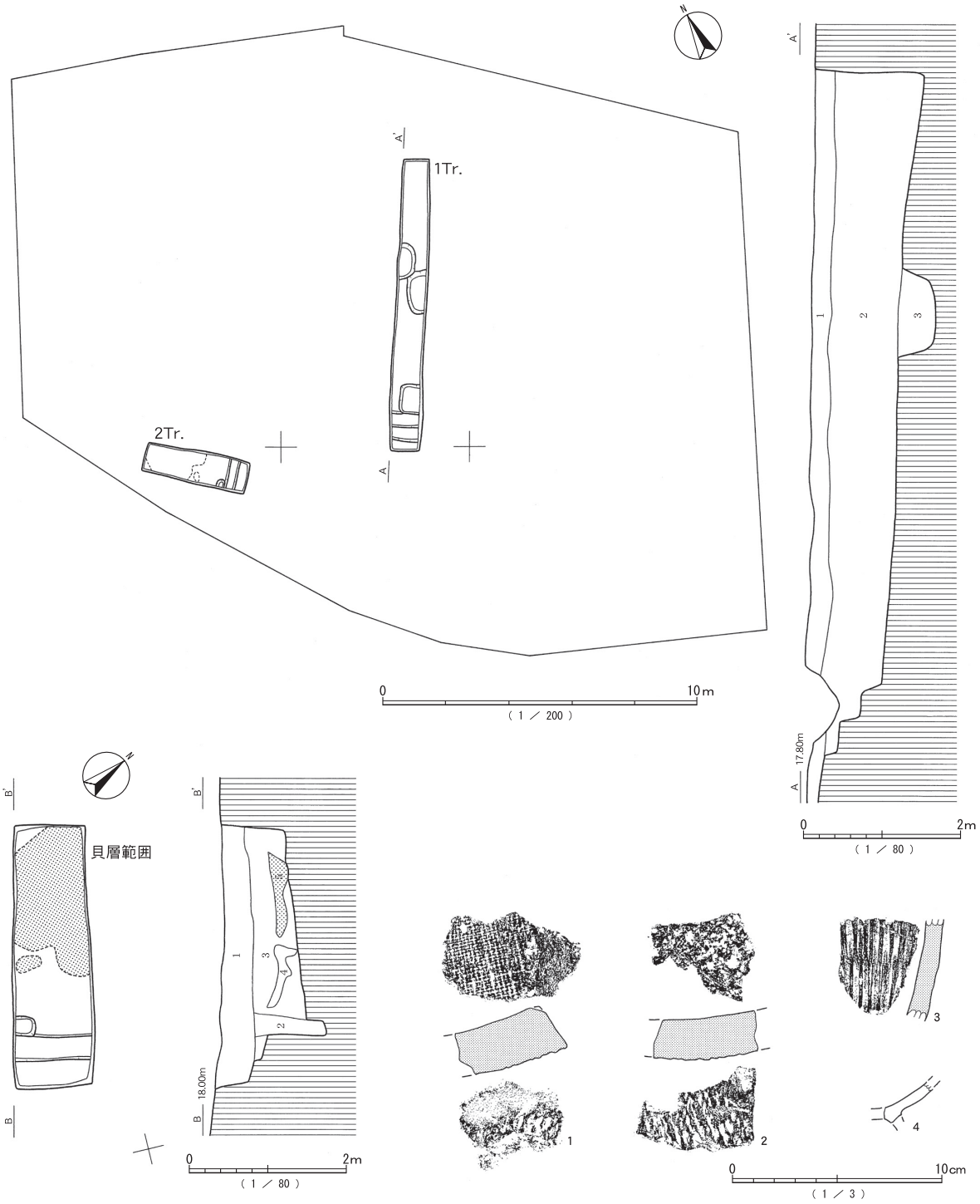
No.2トレンチ1・3層は硬く締まった暗褐色土層であり、とくに3層はローム粒、大小ロームブロックを多量に含んでいた。2・4層は締まりのない暗褐色土層であり、4層には若干の貝が認められた。5層は貝層であり、ブロック状に堆積していた。ともに地山はハードローム層であり、ソフトロームは認められなかった。No.2トレンチ3層中からは、現代瓦が出土しており、土層の形成は近年のものと推定される。ただし、後述のとおり、3層貝層そのものは、平安時代に遡る可能性がある。なお、近隣の貝塚としては、本調査区南側、県営水道三島台市原分場内に、郡本向原貝塚が所在するが、現状の遺存は明らかではない(第18図)。

第19図掲載遺物は、すべて貝層内より出土したものであり、1・2は布目瓦、3はタタキ整形による甕形土器ないし甑形土器、4は、内面黒色処理の高台付杯形土器である。他に、豆粒大の弥生土器と推定される土器小片、鉄滓が出土している。

(2) 貝サンプルの分析結果

貝層の時期と性格

調査区南西に位置するNo.2トレンチから貝層が検出された。調査担当者からは、貝層周辺の硬化した土層中に現代の遺物が認められたことから2次堆積の可能性が高いとの報告を受けたが、貝層の内容物からは攪乱の痕跡を示す資料を見いだすことはできなかった。仮にこの貝層が2次堆積であったとしても、その後に攪乱を受けた可能性は低い。貝層からは弥生時代後期土器破片もわずかに検出さ



第19図　郡本遺跡群全体図・出土遺物

れるが、主体は土師器破片であることから奈良・平安時代の所産と考えられる。恐らく2次廃棄もこれと近い時期と思われる。貝の搬入元としては弥生時代から平安時代の点列貝塚として周知されている郡本向原貝塚があげられるが、宅地化以前の調査区内に貝層が存在していた可能性も考えられる。

資料の採取と分析の方法

断面観察で分層できなかったため、トレンチ中央の貝層端部から西側の貝層中心部に向かって土嚢袋単位で全量が採取された。土嚢は合計13袋となり、1 ～ 12と最下層というサンプル番号が付けら

れた。ただしこの番号は採取順に便宜上付けられたもので、採取地点や層位を特定するものではない。選別は10・4・1㎜メッシュの試験用フルイを用いて、サンプル単位で水洗選別を行なった。

分類・選別作業では、動物遺存体として大型貝類・微小貝類・魚類骨？・ウロコが抽出されたが、魚類骨と思われる微細な骨片とウロコについては種同定まで至らなかった。このほかに特徴的な資料として鉄滓と小礫の検出があげられる。調査区の西側約300mに位置する郡本遺跡第2次調査区では平安時代の竪穴状遺構から鉄滓が出土している(田中1995)ことから、今回検出された貝層の形成時期を検討するうえで有益な情報となる可能性が高い。

大型貝類の同定は市原市文化財センター所蔵の現生・貝塚出土貝類標本との比較により行ない、微小貝類の同定は千葉県立中央博物館黒住耐二氏に依頼した。集計は腹足類(巻貝)では軸部を完存するもの、二枚貝綱では殻頂部の残存するものを対象とした。微小貝類は第4表の分類基準ですべての資料について分類・集計を行なった。二枚貝類は左右殻の出土数量の多い方をもって最小個体数とし、出土数の多いシオフキガイとアサリについては左右殻のうち数量の多い方から完形資料を抽出して、1㎜目方眼紙上で殻高・殻長の計測を行なった。なお、ヒストグラムの表示は全サンプルの計測データを合計し、2㎜階級幅で殻高のみ行なっている。

同定結果と組成・サイズの特徴

郡本遺跡からは腹足綱12種・二枚貝綱8種の計20種の貝類が同定された。砂泥質干潟生息種が主体となるが、淡水産のマルタニシもわずかに含まれる。最も個体数が多いのはイボキサゴで、全体の87％を占める。このほかはシオフキガイとアサリが主要種となり、縄文期に多く見られるハマグリは少ない。微小貝は陸産種主体で、貝層端部側で採取されたと考えられるサンプル№2に集中することから、この部分が廃棄後も一定期間露呈していた可能性が考えられる。開放地生息種のホソオカチョウジとヒメコハクの2種で全体の85％程度を占め、遺跡周辺の環境を想定することができる。

殻高平均値はシオフキガイ34.36㎜・アサリ28.64㎜、殻長平均値はシオフキガイ38.65㎜・アサリ34.54㎜でばらつき幅は比較的狭い。一方、全資料の計測は行なっていないが、ハマグリには殻高20～45㎜程度のものがあり、全体に小型の個体が多く認められた。

二枚貝利用についての若干の検討

近年報告された坊作遺跡(忍澤2002)や今回の郡本遺跡の分析成果からは、養老川右岸に位置する現在の国分寺台地区周辺では、平安時代にシオフキガイの利用が増加する一方、ハマグリの利用が低調になるという傾向が認められた。古代におけるシオフキガイの増加は東京湾岸地域の全般的な傾向(西野雅人氏ご教示)とされるが、ハマグリからシオフキガイへの貝利用の変化は嗜好性の変化というよりも、ハマグリが他の貝類と異なる消費形態にあった、あるいはハマグリの採取が困難になったと考える方が自然であろう。このうち前者については、内陸部の遺跡でハマグリ主体の貝層が検出された事例から食材として流通した可能性や、海岸付近で殻が処理された可能性が指摘されている(西野2004)。一方後者については、ハマグリの性質と遺跡立地からの説明が可能かもしれない。現在の東京湾からほぼ姿を消したことからもわかるように、ハマグリはシオフキやアサリなどに比べて環境変化に弱い種と考えられている。一方、奈良・平安時代のこの地域には国府や国分僧寺・尼寺などの機関が設置され、郡本遺跡も市原郡衙推定地とされることから、上総国の中心地として周辺地域の開発がなされたことは想像に難くない。そしてこの中には海岸線沿いに想定される交通路の整備もあったで

第1表　出土貝類種名一覧

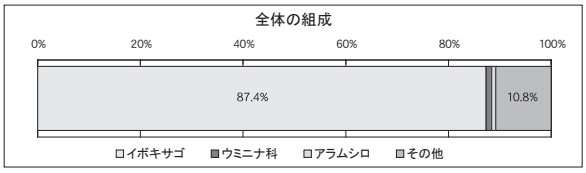
綱	Class	目	Order	科	Family	種	Species
腹足綱	GASTROPODA	原始腹足目	ARCHAEOGASTROPODA	ニシキウズガイ科	Trochidae	イボキサゴ	*Umbonium (Suchium) moniliferum* (Lamarck)
		中腹足目	MESOGASTROPODA	タニシ科	Viviparidae	マルタニシ	*Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens)
				フトヘナタリ科	Potamididae	フトヘナタリ科の一種	Potamididae gen. et sp. Indet.
				ウミニナ科	Batillaridae	ウミニナ科の一種	Batillaridae gen. et sp. Indet.
				タマガイ科	Naticidae	ツメタガイ	*Glossaulax didyma* (Röding)
		新腹足目	NEOGASTROPODA	ムシロガイ科	Nassariidae	アラムシロ	*Raticunassa festiva* (Powys)
		柄眼目	STYLOMMATOPHORA	オカクチキレガイ科	Subulinidae	ホソオカチョウジガイ	*Allopeas pygula* (Schmacker et Boettger)
				コハクガイ科	Zonitidae	ヒメコハクガイの一種	*Hawaiia* sp. Indet.
				ベッコウマイマイ科	Helicarionidae	ヒメベッコウマイマイ類似種	*Discoconulus* sp. Indet.
						キヌツヤベッコウマイマイ類似種	*Nipponochlamys* sp. Indet.
						ハリマキビガイ	*Parakariella harimensis* (Pilsbry)
		腸紐目	ENTOMOTAENIATA	トウガタガイ科	Pyramidellidae	クチキレモドキの一種	*Odostmia* sp. Indet.
二枚貝綱	BIVALVIA	フネガイ目	ARCOIDA	フネガイ科	Arcidae	サルボウガイ	*Scapharca kagoshimensis* (Tokunaga)
		ウグイスガイ目	PTEROIDA	イタボガキ科	Ostreidae	マガキ	*Crassostrea gigas* (Thunberg)
		マルスダレガイ目	VENEROIDA	バカガイ科	Mactridae	バカガイ	*Mactra chinensis* Philippi
						シオフキガイ	*Mactra quadrangularis* Deshayes
				マテガイ科	Solenidae	マテガイ	*Solen grandis* dunker
				マルスダレガイ科	Veneridae	カガミガイ	*Phacosoma laponicum* (Reeve)
						アサリ	*Ruditapes philippinarum* (A.Adams et Reeve)
						ハマグリ	*Meretrix lusoria* (Röding)

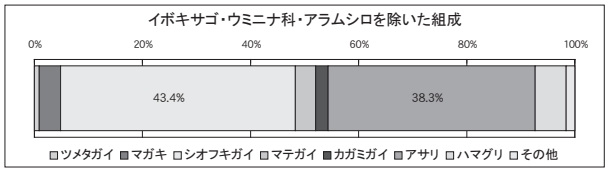
第2表　貝サンプル内容物集計

サンプルNo.	総乾重量(g)	フルイ水洗後残留物重量（g）				土壌重量(g)	混土率(%)	貝殻破砕率(%)	カウント対象貝(g)	魚骨？(g)		ウロコ(点)			微小貝類(点)	炭化物（g）				鉄滓（g）				礫（点）				土師器片(点)	備考
		10mm	4mm	1mm	計					1mm	計	4mm	1mm	計		10mm	4mm	1mm	計	10mm	4mm	1mm	計	10mm	4mm	1mm	計		
1	15900	1432	729	332	2493	13407	84.3%	53.2%	1167				3	3	7		0.8	0.3	1.1			0.9	0.9	1	11	13	25	15	
2	17800	1667	985	353	3005	14795	83.1%	48.8%	1539				1	1	87		+	1.0	1.0		0.8	+	0.8	2	3	14	19	9	
3	13300	903	598	297	1799	11501	86.5%	49.6%	906				1	1	4		+	0.4	0.4			0.2	0.2	1		15	16	5	
4	15300	1251	865	319	2435	12865	84.1%	48.2%	1262									0.2	0.2							6	6	7	
5	19300	1277	1064	351	2692	16608	86.1%	46.9%	1429	+	+						0.2	0.6	0.8			0.5	0.5		1	18	19	12	高台付椀破片１点
6	15000	985	778	283	2046	12954	86.4%	47.7%	1070	+	+							0.3	0.3		1.9	3.6	5.5		10	23	33	17	釘10mm１点
7	19550	1519	1187	462	3168	16382	83.8%	45.5%	1726																1	15	16	12	
8	14900	873	732	371	1976	12924	86.7%	47.2%	1043	+	+				5	+	+	0.8	0.8				0.0			6	6	13	
9	19800	1174	1105	423	2702	17098	86.4%	45.0%	1487			2	3	5	1		0.1	0.8	0.9		0.2	0.4	0.6	2		45	47	12	弥生土器破片１点
10	19450	1427	970	367	2765	16685	85.8%	47.6%	1449	+	+				7			0.8	0.8		0.2		0.2	1	6	37	44	13	
11	16800	975	879	362	2217	14583	86.8%	47.6%	1161								0.1	0.4	0.5			0.2	0.2		1	10	11	17	釘４mm1点
12	16900	1350	974	381	2706	14194	84.0%	46.9%	1438							0.5	0.2	2.0	2.7					1	1	5	7	2	
最下層	12900	585	517	232	1333	11567	89.7%	50.2%	664									0.2	0.2	3.2	0.4	0.5	4.1	1	4	5	10	7	
合　計	216900	15417	11385	4533	31335	185566	85.6%	47.9%	16341	+	+	2	8	10	111	0.5	1.4	7.8	9.7	3.2	3.5	6.3	13.0	9	38	212	259	141	

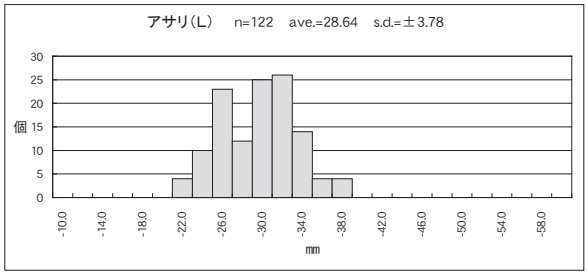
第3表　貝類集計表

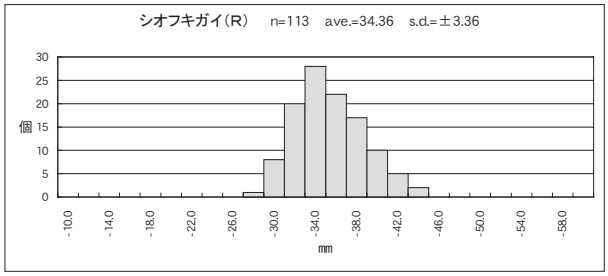
サンプルNo.	腹足綱						二枚貝綱																		備　考
	イボキサゴ	マルタニシ	フトヘナタリ科	ウミニナ科	ツメタガイ	アラムシロガイ	サルボウガイ		マガキ		バカガイ		シオフキガイ		マテガイ		カガミガイ		アサリ		ハマグリ		
							L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	
1	1709		6	32	2	8	1	2	29	9			97	92		1	12	9	92	74	10	14		
2	1948	2	2	38	6	10	1	2	24	13	1	1	110	80	1	1	16	18	128	114	11	15	マルタニシ殻頂部のみ	
3	1321			13	1	13			7	8			54	66			4	8	78	59	6	4		
4	1514			16		9			4	11			105	97	6	8	4	5	84	89	11	6		
5	2080	1	1	19		22	1		8	3	2	1	77	80	2	1	7	4	94	81	11	7	マルタニシ殻頂部のみ	
6	1145			18	2	16		3	3	6			58	57	2	3	3	1	70	69	15	14		
7	2403	2		31	1	32	5		4	8	1	1	162	136	14	19	2	3	94	100	22	25	マルタニシ殻頂部のみ	
8	1655	2	1	8	3	14		2	1				69	89	1			1	51	60	13	12	マルタニシ完存	
9	2416			22	3	19	1		4	1			109	99	2	10	1		82	84	17	16		
10	1764	4		16	1	17		1	9	1			115	95	4	7	5	6	87	79	13	13	マルタニシ殻頂部のみ	
11	1637		1	28	2	18			5	3			71	67	3	8	4	3	69	60	13	10		
12	1798	4		21	2	21			5	6			114	111	31	40	1	4	84	64	10	9	マルタニシ殻頂部のみ	
最下層	798	2		13	1	4			6				47	42	2	5	3	1	34	48	5	4	マルタニシ殻頂部のみ	
合　計	22188	17	11	275	24	203	9	10	109	69	4	3	1188	1111	68	103	62	63	1047	981	157	149		





第20図　貝層全体の種組成（微小貝類を除く）



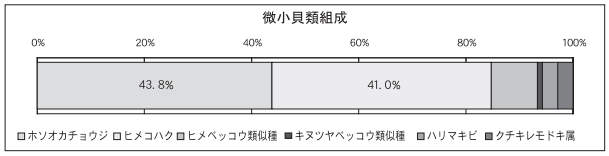


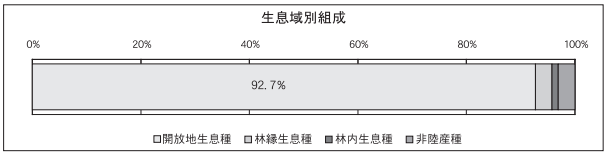
第21図　主要貝類の殻高分布図

第4表　微小貝類集計表

種名＼サンプルNo.	分　類	1 1 mm	2 1 mm	3 1 mm	4 1 mm	5 1 mm	6 1 mm	7 1 mm	8 1 mm	9 1 mm	10 4 mm	10 1 mm	11 1 mm	12 1 mm	最下層 1 mm	サンプル合計
ホソオカチョウジ	a		2									1				3
	ab		3						2		1					6
	u	2	10									1				13
	w		2													2
	lj	2	5	1												8
	ljb		6									1				7
	mj	2	5	2					1			2				12
	mjb		2	1												3
	mjw			1												1
	sj		5													5
	sjb		2													2
	サンプル別同定資料数	6	42	5					3		1	5				62
	サンプル別最小個体数	6	30	4					3		1	4				46
ヒメコハク	a	1	12									1				14
	ab											1				1
	lj		24						1							25
	mj		3													3
	サンプル別同定資料数	1	39						1			2				43
	サンプル別最小個体数	1	39						1			2				43
ヒメベッコウ類似種	a		4								1					5
	lj		4													4
	サンプル別同定資料数		8								1					9
	サンプル別最小個体数		8								1					9
キヌツヤベッコウ類似種	l j		1													1
	サンプル別同定資料数		1													1
	サンプル別最小個体数		1													1
ハリマキビ	a		1													1
	lj										1					1
	mj		1													1
	サンプル別同定資料数		2								1					3
	サンプル別最小個体数		2								1					3
クチキレモドキ属	a		1						1	1						3
	サンプル別同定資料数		1						1	1						3
	サンプル別最小個体数		1						1	1						3

※分類基準　a：成貝　u：殻頂部　w：　螺層部　b：体層（殻口）部　lｊ：大型の幼貝（成貝の1/2以上）　mｊ：中型の幼貝（成貝の1/2～1/4）　sｊ：小型の幼貝（成貝の1/4未満）





※ヒメベッコウ類似種は生息域に検討の余地があるとされるため除外した

第22図　微小貝類の種組成と生息域別組成

あろう。推測の域を出ないが、開発による海岸部への土砂の流出や都市化による水質環境の悪化など、人々の活動が貝類の生息状況に何らかの影響を及ぼした可能性も考えられる。

今後より詳細な検討を行なうには、水系ごとのデータ蓄積をさらに進めるとともに、海に与える人為的な影響の可能性など、多方面から検討してみる必要があるだろう。

参考・引用文献

忍澤成視　2002「住居内および土坑内出土の貝の概要」『坊作遺跡（第１分冊　本文編）』 財団法人市原市文化財センター

田中清美　1995『郡本遺跡（第２次）』 財団法人市原市文化財センター

西野雅人　2004「貝類の分析結果」『千葉寺地区埋蔵文化財調査報告書Ⅳ－千葉市観音塚遺跡－』 財団法人千葉県文化財センター

第5表　実測土器計測表

遺跡名	遺構No.(トレンチ)	遺物No.	挿図	種別	口径(cm)	器高(cm)	頸部径(cm)	胴部径(cm)	底部径(cm)	容量(cc)	出土位置(床±m)	遺　存
潤井戸西山遺跡	(20トレンチ)	1	7	弥生土器壺		(7.2)	4.7	7.5	4.3		一括	底部周辺完存、胴部1/2
潤井戸西山遺跡	(8トレンチ)	2	7	土師器高杯		(3.2)	3.9				一括	脚接合部全周
潤井戸西山遺跡	(5トレンチ)	3	7	土師器椀	(11.3)	(5.1)		(11.8)			一括	体部1/3周
山新遺跡	1号墳(3T)	1	9	土師器高杯		(11.9)	3.7				+0.07	脚柱状部完存
山新遺跡	1号墳(1T)	2	9	土師器高杯		(7.0)	2.7				+0.51	脚柱状部完存
山新遺跡	1号墳(1T)	3	9	土師器高杯		(2.4)			(13.4)		+0.31	脚裾部1/5周
山新遺跡	(3トレンチ)	4	9	土師器甕	(16.2)	(5.5)	(13.4)				一括	口縁部1/7周
山新遺跡	(1トレンチ)	5	9	土師器高杯		(2.5)	(3.0)				一括	脚接合部全周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	1	14	土師器甕	17.7	(23.5)	14.0	28.9			+0.03	口頸部ほぼ全周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	2	14	土師器甕	20.6	30.2	16.9	25.3	6.7	8899.9	+0.14	ほぼ完存
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	3	14	土師器甕	17.6	27.3	14.9	22.6	5.5	6353.8	-0.02	ほぼ完存
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	4	14	土師器甕	23.6	(15.0)	17.8	32.8			+0.06	胴部上半ほぼ完存
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	5	14	土師器甕	20.2	(13.3)	15.0				+0.03	口頸部ほぼ全周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	6	14	土師器甕	19.7	27.4	15.9	22.2	6.4	6472.0	+0.03	ほぼ完存
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	7	14	土師器甕	18.4	26.1	15.2	22.1	6.7	5835.8	+0.01	胴部上半1/4欠
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	8	14	土師器甕	14.6	21.3	12.6	16.3	5.8	2646.2	+0.05	口縁部一部欠
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	9	14	土師器甕	17.5	(8.2)	14.8	18.2			+0.24	口頸部3/4周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	10	14	土師器甕	(15.4)	(10.2)	(13.1)	(14.8)			+0.04	胴部上半1/3周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	11	15	土師器甕	(13.2)	(3.5)	(11.8)				+0.15	口縁部1/7周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	12	15	土師器甕	15.0	(14.8)	12.1	(20.1)			(+0.07)	口頸部全周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	13	15	土師器甕	(18.4)	(8.6)	(13.6)				+0.08	口縁部1/3周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	14	15	土師器甕		(7.4)			6.6		+0.10	底部完存
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	15	15	土師器甕	(20.0)	(6.7)	(16.4)				+0.14	口縁部1/4周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	16	15	土師器甕	(16.0)	(7.3)	(14.1)	(16.2)			+0.27	口縁部1/4周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	17	15	土師器甕	13.8	(10.3)	12.5	14.3			(+0.15)	胴部上半1/2
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	18	15	土師器甕	(14.8)	(4.0)	(12.4)				一括	口縁部1/5周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	19	15	土師器甕	(16.2)	(6.2)	(15.6)	(17.2)			+0.11	口縁部1/5周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	20	15	土師器甕	(16.0)	(9.7)	(13.9)	(18.4)			一括	口縁部1/5周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	21	15	土師器広口壺	11.7	(11.7)	9.7	14.5			(+0.15)	口頸部全周、胴部上半1/2周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	22	15	土師器広口壺	(13.2)	(6.8)	(11.6)	(14.1)			+0.21	口縁部1/3周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	23	15	土師器広口壺	(15.2)	(4.0)	(13.2)				(+0.36)	口縁部1/7周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	24	15	土師器広口壺	(10.0)	(4.9)	(9.1)	(11.4)			+0.08	口縁部1/4周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	25	15	土師器甕		(5.9)			5.6		+0.16	底部周辺のみ
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	26	15	土師器甕		(2.3)			3.7		一括	底部のみ
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	27	15	土師器甑	(22.6)	(13.1)					(+0.09)	口縁部1/6周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	28	15	土師器椀	(14.6)	(3.3)		(15.8)			一括	口縁部1/7周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	29	15	土師器鉢	(12.2)	7.4			6.5	470.8	+0.19	底部周辺、体部上半1/5周
江子田遺跡	1号竪穴(DT)	30	15	土師器椀	(11.4)	7.2		(11.9)		469.3	+0.10	体部上半2/3欠
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	31	15	土師器杯	15.1	6.5		15.1		665.4	(+0.13)	口縁部一部欠
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	32	15	土師器杯	13.4	4.7		13.5		407.0	(+0.09)	ほぼ完存
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	33	15	土師器(杯)	(13.8)	(4.9)		(13.9)		391.1	(+0.36)	体部1/4
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	34	15	土師器高杯	(13.2)	(5.0)				331.5	+0.09	体部1/2
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	35	15	土師器(杯)	(13.4)	(4.3)		(13.6)		357.1	(+0.23)	体部上半1/5周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	36	15	土師器(杯)	(13.0)	(3.8)					一括	体部上半1/2周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	37	15	土師器高杯	14.3	(4.6)				347.1	+0.08	杯部ほぼ完存、脚部欠損
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	38	15	土師器杯	(15.8)	4.0		14.8		390.6	+0.09	口縁部4/5周欠
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	39	15	土師器杯	(14.2)	3.9		(13.4)		296.2	(+0.36)	体部1/2
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	40	15	土師器(杯)	(12.8)	(3.1)		(12.0)		219.5	一括	体部上半1/5周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	41	15	土師器(杯)	(14.4)	(2.9)		(13.8)			(+0.28)	体部上半1/6周
江子田遺跡	1号竪穴(DT)	42	15	土師器(杯)	(13.2)	(3.6)		(13.2)			+0.25	体部上半1/6周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	43	15	土師器(杯)	(12.8)	(4.5)		(13.9)			(+0.18)	体部上半1/3周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	44	15	土師器杯	11.7	5.4		11.9		349.7	(+0.11)	ほぼ完存
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	45	15	土師器杯	12.8	4.9		12.8		340.4	+0.06	体部2/3
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	46	15	土師器杯	(14.4)	(4.4)		(15.2)			(+0.35)	体部上半1/3
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	47	15	土師器(杯)	(13.7)	(3.2)		(14.0)			一括	体部上半1/7周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	48	16	土師器高杯		(8.1)	2.7		8.7		+0.06	脚部ほぼ完存
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	49	16	土師器高杯		(7.0)	3.3		(9.0)		+0.35	脚柱状部全周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	50	16	土師器高杯		(6.4)	3.3		(8.2)		一括	脚柱状部全周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	51	16	土師器高杯		(5.2)	(3.1)		9.3		+0.33	脚柱状部全周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	52	16	土師器高杯		(4.9)	3.1		(8.8)		(+0.16)	脚柱状部全周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	53	16	土師器高杯		(4.1)			(8.8)		一括	脚裾部1/3周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	54	16	土師器高杯		(6.7)	3.6				(+0.36)	脚柱状部全周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	55	16	土師器高杯		(6.4)	3.3		(8.0)		+0.05	脚柱状部1/2周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	56	16	土師器高杯		(6.4)	3.2		(9.9)		+0.07	脚部ほぼ完存
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	57	16	土師器高杯		(6.2)	3.6				+0.22	脚柱状部全周
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	58	16	土師器高杯		(4.8)	3.5		9.7		一括	脚柱状部全周
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	59	16	土師器(甕)		(1.5)			4.5		(+0.26)	底部完存
江子田遺跡	1号竪穴(GT)	60	16	土師器ミニチュア		(1.8)			3.5		+0.04	底部2/3
江子田遺跡	1号竪穴(CT)	61	16	土師器ミニチュア		(2.0)			3.5		一括	底部1/2
江子田遺跡	2号竪穴(FT)	1	16	土師器甕	(18.0)	(18.4)	(14.8)	(19.8)			-0.01	胴部中位1/2周
江子田遺跡	2号竪穴(FT)	2	16	土師器甕	17.4	(10.1)	14.6				+0.01	口縁部1/2周
江子田遺跡	2号竪穴(FT)	3	16	土師器甕	(12.2)	(4.3)					-0.03	口縁部1/3周
江子田遺跡	2号竪穴(FT)	4	16	土師器壺		(5.0)		(12.4)	6.5		+0.22	底部周辺完存
江子田遺跡	2号竪穴(FT)	5	16	土師器杯	(14.3)	5.4		13.0		487.6	+0.07	体部下半ほぼ完存
江子田遺跡	2号竪穴(FT)	6	16	土師器杯	14.1	4.9		13.8		377.1	+0.23	体部2/3
江子田遺跡	2号竪穴(FT)	7	16	土師器高杯		(6.3)	3.5		(9.4)		+0.07	脚柱状部全周
江子田遺跡	2号竪穴(FT)	8	16	土師器ミニチュア		(1.7)			3.4		一括	底部完存
江子田遺跡	3号竪穴(AT)	1	17	土師器甕	(21.0)	(16.4)	(17.6)	(20.0)			+0.21	胴部上半1/4周

江子田遺跡1号竪穴Cトレンチ遺物の出土位置(高さ)は、推定床面レベルからの値。

不入遺跡　全景

不入遺跡　3トレンチ完掘状況

不入遺跡　4トレンチ完掘状況

不入遺跡　1号陥穴

姉崎山新遺跡　掘削時状況

姉崎山新遺跡　3トレンチ遺構検出状況

姉崎山新遺跡　2トレンチ遺構検出状況

姉崎山新遺跡　2トレンチ遺構検出状況

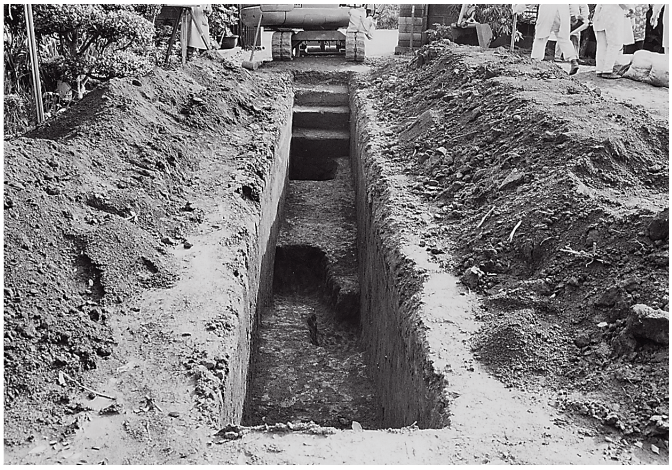
図版2　遺構等　姉崎山新遺跡・郡本遺跡群

姉崎山新遺跡　1号墳周溝(1トレンチ)

姉崎山新遺跡　1号墳周溝(3トレンチ)

姉崎山新遺跡　1号土坑

郡本遺跡群　調査前状況



郡本遺跡群　1トレンチ完掘状況

郡本遺跡群　2トレンチ貝層断面

郡本遺跡群　2トレンチ貝層検出状況

郡本遺跡群　2トレンチ完掘状況

潤井戸西山遺跡 調査前状況

潤井戸西山遺跡 全景

潤井戸西山遺跡 7トレンチ完掘状況

潤井戸西山遺跡 9トレンチ竪穴住居跡(003)遺存状況

潤井戸西山遺跡 3トレンチ竪穴住居跡(006)・溝(010)

潤井戸西山遺跡 2トレンチ遺物出土状況

潤井戸西山遺跡 1号陥穴

潤井戸西山遺跡 11トレンチ完掘状況

江子田遺跡 全景

江子田遺跡 1号竪穴(Gトレンチ)遺物出土状況

江子田遺跡 1号竪穴(Gトレンチ)遺物出土状況

江子田遺跡 1号竪穴(Gトレンチ)遺物出土状況

江子田遺跡 1号竪穴(Gトレンチ)

江子田遺跡 1号竪穴(Cトレンチ)遺物出土状況

江子田遺跡 1号竪穴(Dトレンチ)

江子田遺跡 2号竪穴(Fトレンチ)遺物出土状況

潤井戸西山遺跡　1

姉崎山新遺跡　1号墳−1

姉崎山新遺跡　1号墳−2

江子田遺跡　1号竪穴−1

江子田遺跡　1号竪穴−2

江子田遺跡　1号竪穴−3

江子田遺跡　1号竪穴−4

江子田遺跡　1号竪穴−6

江子田遺跡　1号竪穴−5

江子田遺跡　1号竪穴−7

江子田遺跡　1号竪穴−8

江子田遺跡　1号竪穴−12

江子田遺跡　1号竪穴−14

江子田遺跡　1号竪穴−9

江子田遺跡　1号竪穴−17

江子田遺跡　1号竪穴−21

江子田遺跡　1号竪穴−29

江子田遺跡　1号竪穴−30

江子田遺跡　1号竪穴−38

江子田遺跡　1号竪穴−31

江子田遺跡　1号竪穴−32

江子田遺跡　1号竪穴−37

江子田遺跡　1号竪穴−44

江子田遺跡　1号竪穴−45

江子田遺跡　1号竪穴−48

江子田遺跡　1号竪穴−49

江子田遺跡　1号竪穴−50

江子田遺跡　1号竪穴−51

江子田遺跡　1号竪穴−54

江子田遺跡　1号竪穴−56

江子田遺跡　1号竪穴−57

江子田遺跡　1号竪穴−58

江子田遺跡　1号竪穴−60

江子田遺跡　2号竪穴−1

江子田遺跡　2号竪穴−2

江子田遺跡　2号竪穴−5

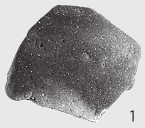
江子田遺跡　2号竪穴−7

江子田遺跡　2号竪穴−6

江子田遺跡　2号竪穴−8

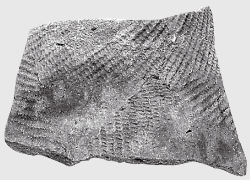
江子田遺跡　3号竪穴−1

不入遺跡


1

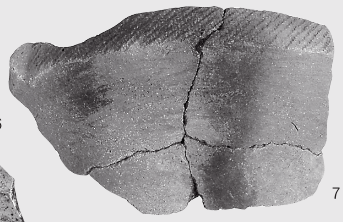
潤井戸西山遺跡

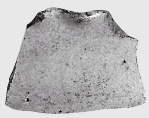
3


4

5

6


7



8

姉崎山新遺跡

3

4

5

6

江子田遺跡

1竪穴62

1竪穴63

1竪穴64

1竪穴65

1竪穴67

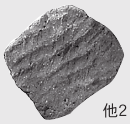
1竪穴68

1竪穴66

江子田遺跡

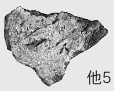
2竪穴9

他1


他2

他3

他4


他5

他6

他7

他8

他9

他10

他11

他12

他13

他14

他15

郡本遺跡群

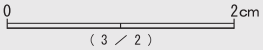
1

2

3

4

種実遺体



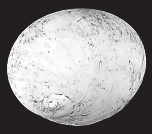
大型貝類（S=1/2）

イボキサゴ

ヘナタリガイ

ウミニナ

アラムシロ


ツメタガイ

マルタニシ

サルボウガイ L

マガキ L

シオフキガイ L

バカガイ R

マテガイ L

アサリ L

カガミガイ R

ハマグリ L

微小貝類（S=5/1）

ホソオカチョウジガイ

ヒメコハクガイの一種

ヒメベッコウ
マイマイ類似種

キヌツヤベッコウ
マイマイ類似種

ハリマキビガイ

クチキレモドキの一種

郡本遺跡群出土貝類

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせい16ねんどいちはらしないいせきはっくつちょうさほうこく
書名	平成16年度市原市内遺跡発掘調査報告
副書名	不入遺跡・潤井戸西山遺跡D地点・姉崎山新遺跡・江子田遺跡・郡本遺跡群
巻次	
シリーズ名	市原市内遺跡発掘調査報告
シリーズ番号	第18冊
編著者名	大村直 ・ 鶴岡英一
編集機関	財団法人市原市文化財センター
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地　TEL 0436(41)7300
発行年月日	2005年(平成17年)3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ふにゅう 不入遺跡	千葉県 市原市久保793	12219	68	35° 21′ 59″	140° 09′ 38″	20040517 ～ 20040521	118.8㎡ (確認)	墓地造成
うるいどにしやま 潤井戸西山遺跡 D地点	市原市草刈尾梨 194-1	12219	937	35° 31′ 28″	140° 10′ 01″	20040526 ～ 20040604	250㎡ (確認)	店舗建設
あねさきさんしん 姉崎山新遺跡	市原市姉崎字堂ノ内 1599-3	12219	349	35° 28′ 56″	140° 03′ 22″	20040614 ～ 20040618	26㎡ (確認・本)	個人住宅 建設
えこだ 江子田遺跡	市原市江子田字送り 塚307-195	12219	113	35° 23′ 31″	140° 09′ 14″	20040720 ～ 20040728	20.7㎡ (確認・本)	個人住宅 建設
こおりもと 郡本遺跡群	市原市郡本4丁目40・ 80・81	12219	793	35° 30′ 49″	140° 07′ 11″	20040907 ～ 20040910	12㎡ (確認)	個人住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
不入遺跡	包蔵地	縄文時代	陥穴1基	土師器	
潤井戸西山遺跡 D地点	包蔵地	弥生時代中期、古墳時代前・中・後期	竪穴住居(古墳前中後期)6軒、陥穴1基、溝1条	弥生土器・土師器・須恵器・中世陶器	
姉崎山新遺跡	包蔵地 古墳	古墳時代前期	円墳(古墳前期末)1基、土坑6基、溝2条	土師器・埴輪	
江子田遺跡	包蔵地	古墳時代後期	竪穴住居跡4軒(古墳後期)、土坑1基	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石鏃	
郡本遺跡群	包蔵地	平安時代	貝ブロック	土師器・瓦	

＊ 北緯東経は世界測地系による。

平成16年度 市原市内遺跡発掘調査報告

平成17年3月24日 発行

編　集　財団法人市原市文化財センター
市原市能満1489

発　行　市原市教育委員会
市原市国分寺台中央1−1−1

印　刷　三 陽 工 業 株 式 会 社
市原市五井5501−1